



會圖所名

前集
再刊



都名所圖會卷之五目錄

前朱雀

- 八幡疫神系
- 常盤地藏
- 阿弥陀堂
- 石清水
- 細橋
- 志水
- 大荒木森
- 城南社
- 美福門院墓
- 冠石 墓盤梅
- 墨染梅
- 神宮寺
- 狐川渡
- 下高良社
- 上高良社
- 乾向橋
- 正法寺
- 浮田森
- 秋の山
- 西行寺
- 鐘本町
- 城山 梅の名所
- 放生川
- 宿院
- 鳩峯
- 琴塔
- 龍奉坊回廊
- 女郎花塚
- 淀川
- 竹田
- 西行梅
- 墨染
- 梅谷 梅の名所
- 餌飼地藏
- 疫神堂
- 八幡宮
- 景清塚
- 御祭礼場 放生會 来由
- 淀姫社
- 水車 夜舟
- 北向不動院
- 安樂壽院
- 墨染寺
- 源草おた回廊

朝日山	宇治橋	茶橋圖	三室戸寺	梶川橋	京橋松場	長明方丈石	一言寺	少將通路	栗栖小野	石峯寺 <small>茶死子</small>	瑞光寺	飲津寺
惠心院	通達茶屋	宇治川	宇治山	小幡	豊後橋	石田	笠取山	下醍醐	小野	即成就院	元政墓	涼州 <small>勢本</small>
真聖寺	橋寺	山吹	喜撰嶽	彌陀次郎旧跡	指月	佛園寺	日野茶師堂	上醍醐	小町水	那須与一墳	昭宣公墳	藤森社
琴坂	離宮神	橋小幡	宇治十帖古跡	茨篠山万福寺	六地藏	御香宮 <small>作香水</small>	重衡塚	醍醐水	栢の本	桓武帝陵	宝塔寺	走馬圖

加茂社	常森	狗里	一休和尚旧跡	蟹満寺	玉川	兜社	鷲峯金胎寺	點及圖	鎧倉松	核尾山	真石	龜石
潜見河原	海修山寺	瓶原	天神杜	涌杜	井手里	玉水	百丈山大智寺	宇治田原	扇芝	平等院	橋姫社	山吹
笠置寺	茶仁都	松杜	綴喜都	北右野神童寺	光明山	諸兄公旧跡	久世鷲坂	葵栗焼栗林	駒摩松	鳳凰堂	浮舟	中宿芝
流園	園分寺	本津川	薪酬恩菴	高倉宮靈廟	玉井寺	推尾山	信西入道墓	縣社	釣殿	鶴飼	堂將	堂將

栗栖天満宮

やうくまの下の向
よの破魔弓毛鐘
ふとの武彦坂求
て土産とるの神功
宮后三韓と退治
あくと御凱陣
はしくの遺
風あそ



八幡
神宮寺

独道法師

あつり
る

やどる
月え
くは

ノヤ

科牛



院住長中田

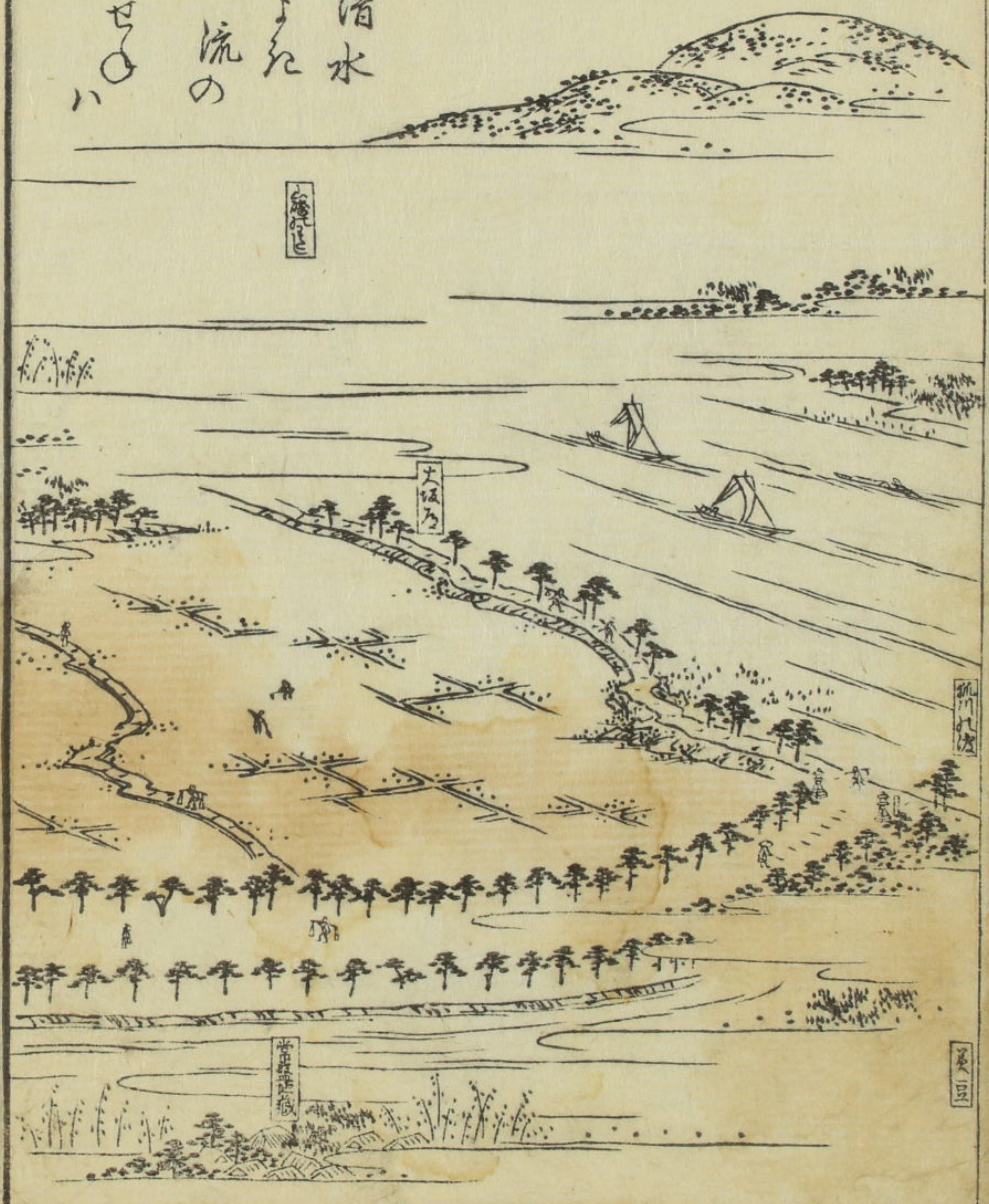
十載
石清水
きよら
流の
絶
せの
ハ

徳兵衛

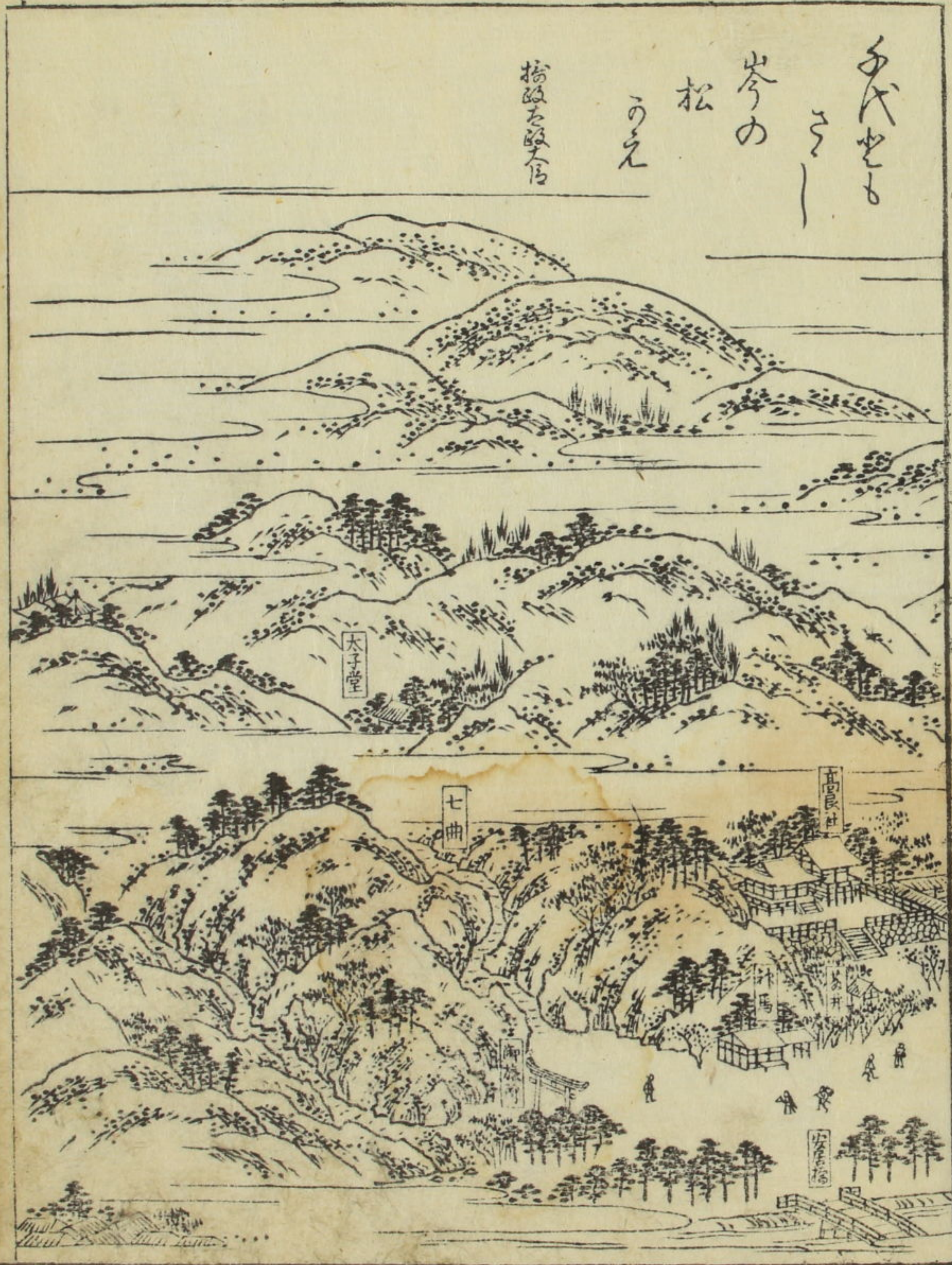
大坂乃

新井

三三



五



新後撰
 やりて山
 ころり
 神の
 め
 くら
 とて



八幡
 御旅所
 阿弥陀堂
 鳩の峯

太子堂
 七曲
 五良社
 山宮
 山宮橋

川生放

放生寺

神應寺

津田

宿井

津田

寂光寺

不動堂

庚申堂

石清水正八幡宮の王城の南に於て約程四里綴喜郡男山鳩嶺小湊鎮座あり

やうてふ初に志あめ内小松代と松風をぬく 後鳥羽院

本社に三坐あり多々譽田天皇 日本紀小足仲彦天皇の應神天皇の是仲哀天皇

聖壽二百 玉依姫 東の向小鎮坐一の八鴨草草不令尊の妃 神功皇后 西の向小鎮

十一歳 用化天皇の曾孫氣長宿禰の女あり知り聰明睿智容貌壯麗海幸於當帝廿一年小

三韓攻平てん流奈小ありて應神帝と生ゆに位六十九年聖壽一百歳

當山小湊鎮坐の貞觀二年六月十五日和別大安寺の沙門行教和尚社

殿造造宮一り行教の執業宇佐八幡又小一夏九旬の向系統して

益を大京の経後夜に真言以誦して法樂せし八幡宮所流宮あり

我王城の近小遷坐して鳳凰宮守後一國守安恭昭うめんとのことし其

夜行教の三衣小阿弥陀の二尊現れりり沙門都ふ上つて此由致奏聞し

々れを朝廷大不悦せり後一遂小此小神殿を宮て永崇致しゆり

八幡の神統に流宮崎駿松の下小八流の儀存り赤幡四流白幡四流則は所に

社と建て正八幡大菩薩と崇奉る又一注に小氣清磨小流してりり八幡宮

とを多々あり當社を行教の親法より兩部して老致わつけ利登の塵

とり一鳥居 松下宮階あり八幡宮の類に佐理卿の多り回換し々れを

二鳥井 七曲の三鳥居 大師堂の前より石柱小銘と彫正保二年正月從四位

若宮 仁徳天皇 若姫宮 宇禮姫具社 水若宮 仁徳帝の所あり

上高良 衣内大後致あり六胡の位下 下高良 藤大良連保致あり神統高良

奉行の故小 石清水 本殿の異小の半殿あり 玉皇と号し 儀小石清水推現社あり

松とわひすと菘むとを流あり流くつるまのん 貫之

神々やけとを流る石清水をんらやをれまど久した 為家

橘樹 前殿の 杉向儀 西の回廊 楠 東回廊の外あり 判官正成新徳のたれ杉株栽

安宗別當社 楠の儀あり行教和尚の所子 将尾社 本殿の西六町よりあり

大塔 大日多宝の二尊あり 琴塔 混沙門王と安良軒の四方より 左子堂 け堂の南に佛の

像阿弥陀佛等あり 薬師堂 護國寺といふ當社湊鎮座以前の草創といふ南無佛の

八幡宮神像の元二大師堂 大師の神像の脚の能く 愛染堂 盛徳院と号し本を

阿弥陀と安良良 元二大師堂 大師の神像の脚の能く 愛染堂 盛徳院と号し本を

疫盡堂

一多居の南廊下の内より八幡宮御蔭所之疫神ハ正月十九日

本地堂

至と安重は二尊の極楽寺と樹本尊ハ阿弥陀佛

宮本坊

行教院と号に用ひ行教の龍本坊石造りの像あり

稲荷社

小鍛冶宗近は所小稲荷名鍛と鍛しあり

大衆院

宿院科手の間より當山の神宮寺より本尊ハ千手観音

足立寺

本殿の西よりあり新徳天皇ヲ削道鏡ニ帝位依りつり

借丸上格しては前奏奏とら道鏡怒りて清丸の二足取さうり

三善法寺

當山の社勢ありて三善寺あり善法寺新法寺

放生會ハ例年八月十五日あり人皇四十四代元正天皇御宇

九月小征夷の事ありて大隅日向の両玉大逆乱と故小内裏より

宇佐八幡宮小祈誓ありて其宮に祢宜辛勝波豆本ハ神軍

て此國征へたる故と亡り其後八幡の神託宣ふは合致ふ

の殺せざるは間殺せざるはたう神勅ましくを法ふあり

放生川 八月十六日放生供養ありて 高橋 安居橋

臨時系ハ二月中旬日あり 天慶又年より

餌飼地藏 小野篁の伝全昌寺の由あり 若宮八幡 常盤地藏

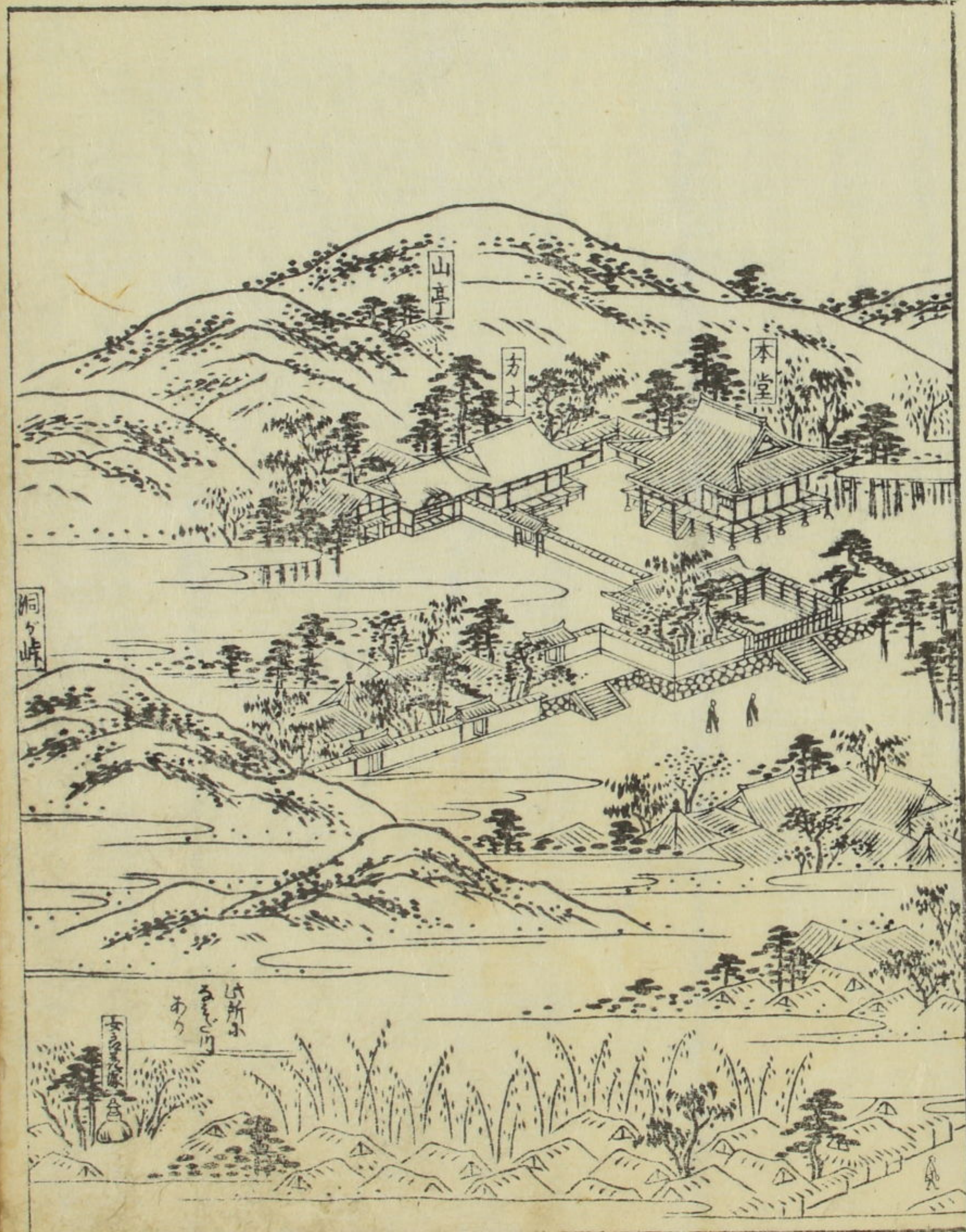


宿院のやとり
 小の芝居放下
 師いらく乃
 ねま出せん
 あく市とる
 神夏のみ
 ちん

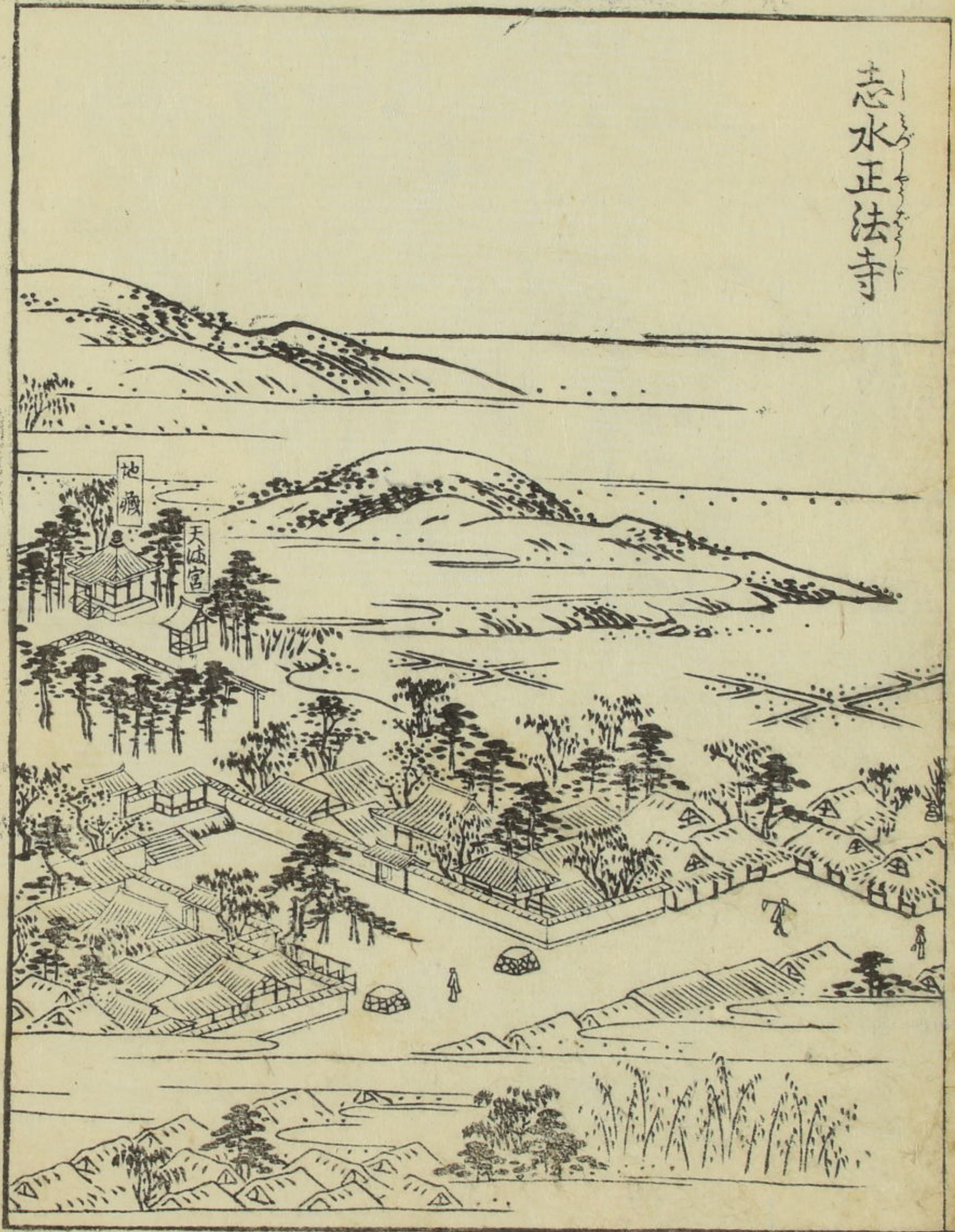


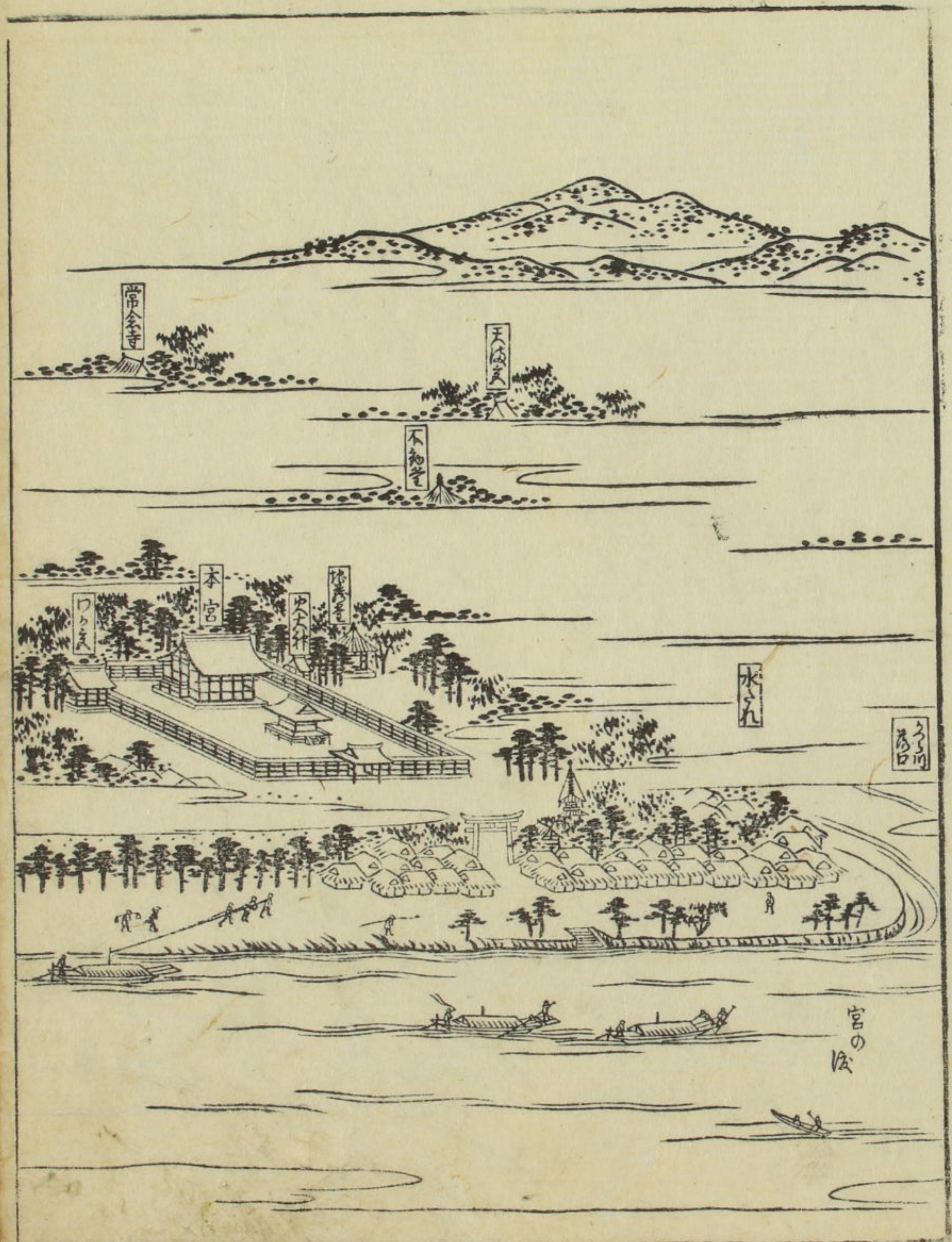
ハ幡れ放生舎を毎年
 八月十八日の未明より下
 院神幸ありて日七時
 還幸しゆん十六日
 放生川の汀へ
 社傍にて
 の
 魚鳥
 放り

いぬ日
 遠近より
 群集

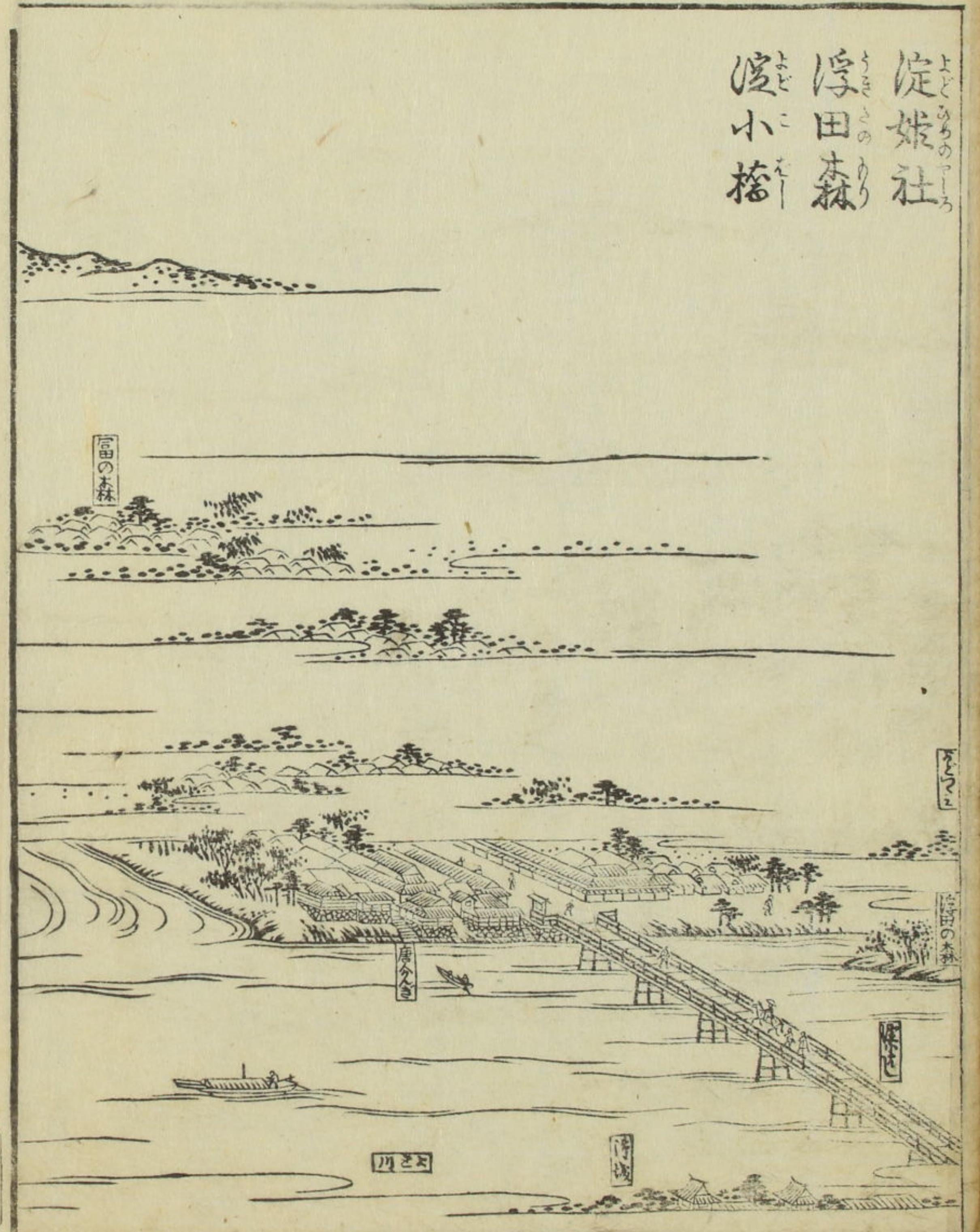


志水正法寺



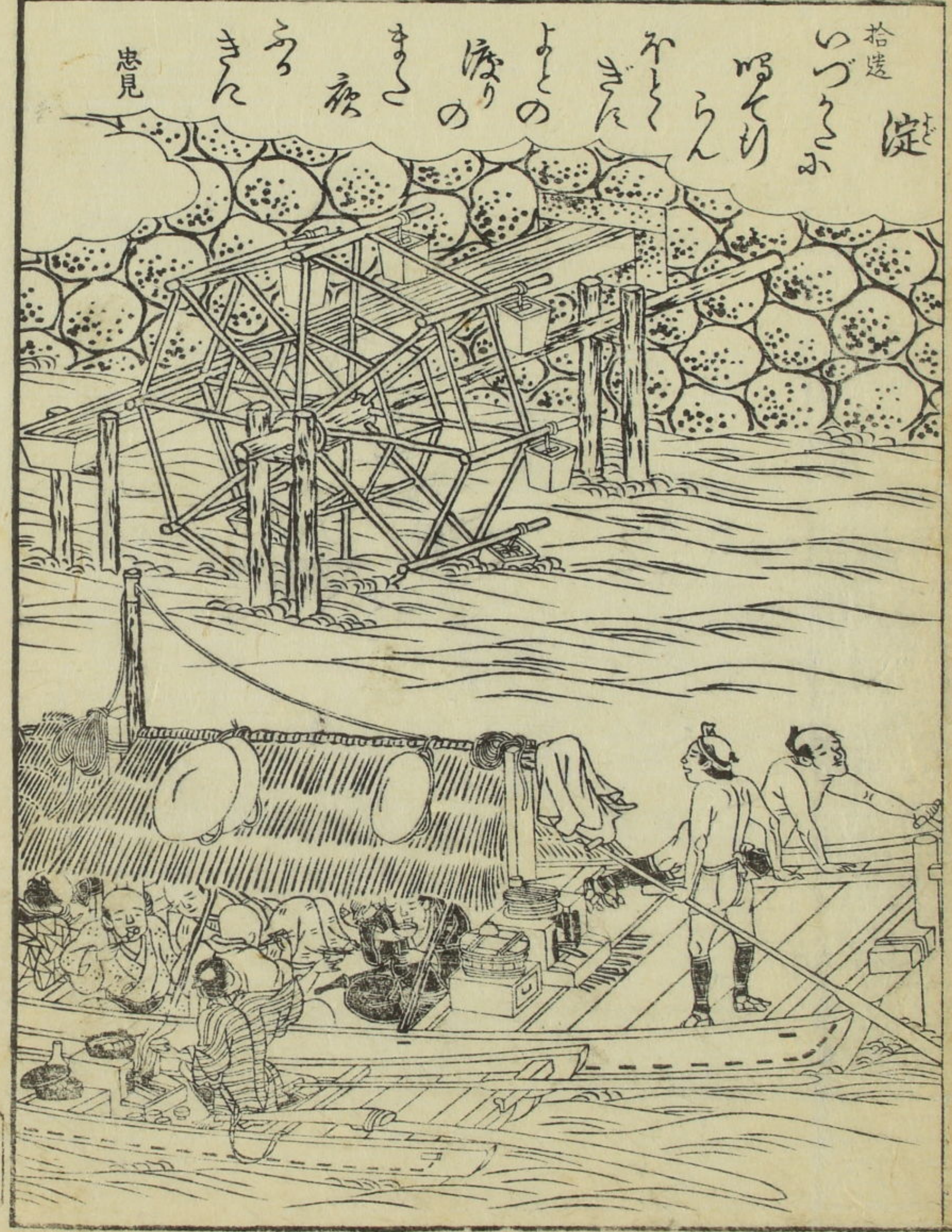


淀姫社
 厚田森
 渡小橋

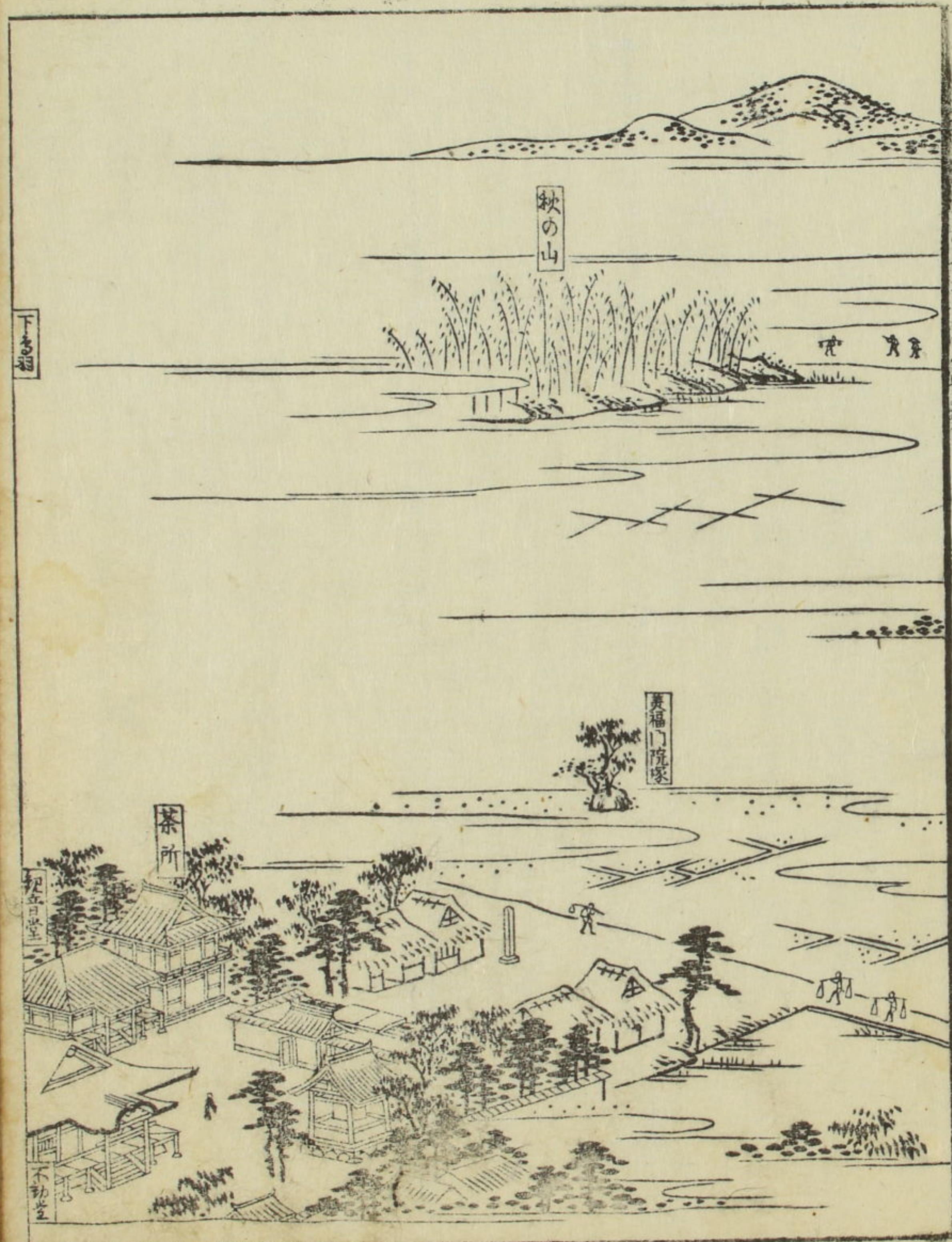




淀の水車はむう
 よりありて耕種乃
 ためふて秀吉公の
 室淀磨るれば
 申しより旅中乃
 用とるん



拾遺 淀
 いづこふ
 唱り
 かん
 の
 の
 の
 まご
 務
 かん
 忠見



竹田
北向不動院
西行寺
城南神社
久保氏

下巻

初五日堂

不動堂

三四

芥川里を淀の東北半里ふありいみへも天子慈憐の地ありて約幸

たぐざありし故ふるは里よりありて三尺の根芥生れ

仁和寺門邊の神所の例として芥川小

こののふもゆれ絶り芥川の子代の古道はありなり 行平

まるとれとみ代の方なるもては芥河ふも芥橋らん 家隆

けさたふもゆれとれ芥川や竹田のさる人あり 倭人志

城南神のやし流を芥川のみあり 伊勢石清水加茂松尾平野

八幡宮の森の東ふあり 例は九月廿日神樂二基あり上皇殿

城南離宮を白川上皇寛治元年ふ造営ありて遷り仙居あり 旧地を

北殿南殿田中殿馬場殿車殿等の名あり此の殿を南ふ八町

東西六町ありて奈海に摸して中ふ島に依り蓬萊らに築て巖と

舟と流て帆と飛し烟浪渺々と掉と飄して碇と下し去るをたれ

陰めて月御音樂を奏し秋を比水小月夜流を客舟と流

上皇を元來寛仁の御公源へて里人ふ牛車永ゆるりて

又鳥羽院ふも書書れは舞々々々安樂壽院に定海ふ命ト

て孔雀明王の法を修せむとれは法皇崩して忽保元れ乱あり

後白河院は宮小整ふまより次第に其處してふ田整ふまより

ふふと好く物然しくをえとてつるも相田の秋れ夕言 園位法師

日向不動院を城南神の良ふあり本も不動明王の興教大師れ依る當院を

鳥羽院に御建をりて王城の鎮護を寶祚延長に勅額所也 興教大師

の毘沙門天小糸の糸の糸を纏生珠を感得る鳥羽上皇ふ

美福門院の陵 不動院 近衛院 寺僧と感得ること云

西行寺に不動院の西側ふあり鳥羽の離をありて附は折に似

宅地あり 即思池畔塔を築てありふあり竹田村の郷士

長谷川氏の西行法師は苗孫ありとて

あへり日け小神く素山子の非

乘福



安樂壽院の竹田里不動院のふりり鳥羽上皇脱躡のほ城南の難宮み
ほしく小殿をわたりて當院さうふみ保延三年十月十九日覺行

法親王戒導師として慶しやう
宗首の真言のりて
古義新義の修まら

本御塔 五重の塔はゆふふふとせり
本尊は卍字阿弥陀佛と極は
脚面より

二尊土佛 釋迦弥陀兼師の二像あり
五輪塔 無銘あり上皇如法經
板は所はねり

基盤盤梅 上皇城南の宮中におつて圍基板禁じぬい基盤板禁じては樹下み
埋めとせぬふいゆふふとせり
當院は今ふりて圍基板禁じぬり

冠石 本御堂新御堂の向あり冠の形
ゆるゆるゆふふと

新御塔 南の方の本堂をり
本尊は地藏菩薩ありて定朝の依
念持佛

鳥羽院震教美福門院 鳥羽院の女中
八條女院に叙
近衛院の沖舟に
叙

二重塔 阿弥陀佛を安置する
去日の依りけ塔は豊長秀頼公
の所建立ありり

鎮守 荒社と

鐘木町の竹田に巽五町あり秀吉公伏見沖在城の時後多掃前系公なる

といふ所の小慶長九年十二月小傾城町免許あり所あり
今八年経て
荒廢なる

墨染を鐘木町の山三町よりありむのい所すも源平といひて野
みハ橋多し寛平三年堀川を改大長昭宣公薨しあつ時上野岑雄義

傷のわをと泳せむけりけ橋墨染又咳しとあり

源平の形も道の橋しをありてとむり源平さうけ
みよと

菅公は神泳みハ梅もつり小飛趙師雄の多し
いんハ履之の枕さるる

嵩山の松を青牛と化し康頼入道の寶物集まハ茶本をうしといふも

物のありれ源平のいさむそのまハ墨染又咳今源平は墨染橋とあり

といふ所の其のいさむもありしといふなり

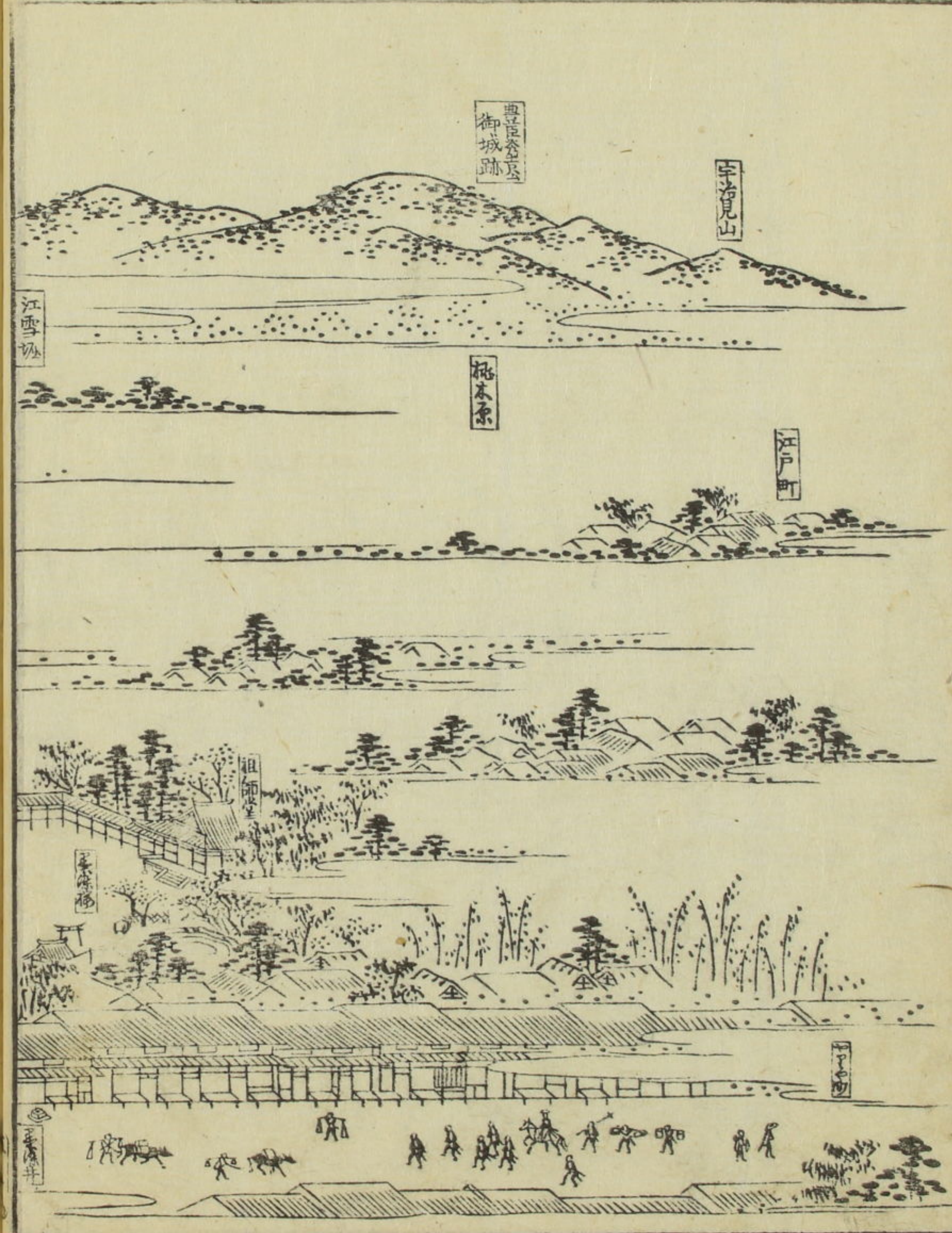
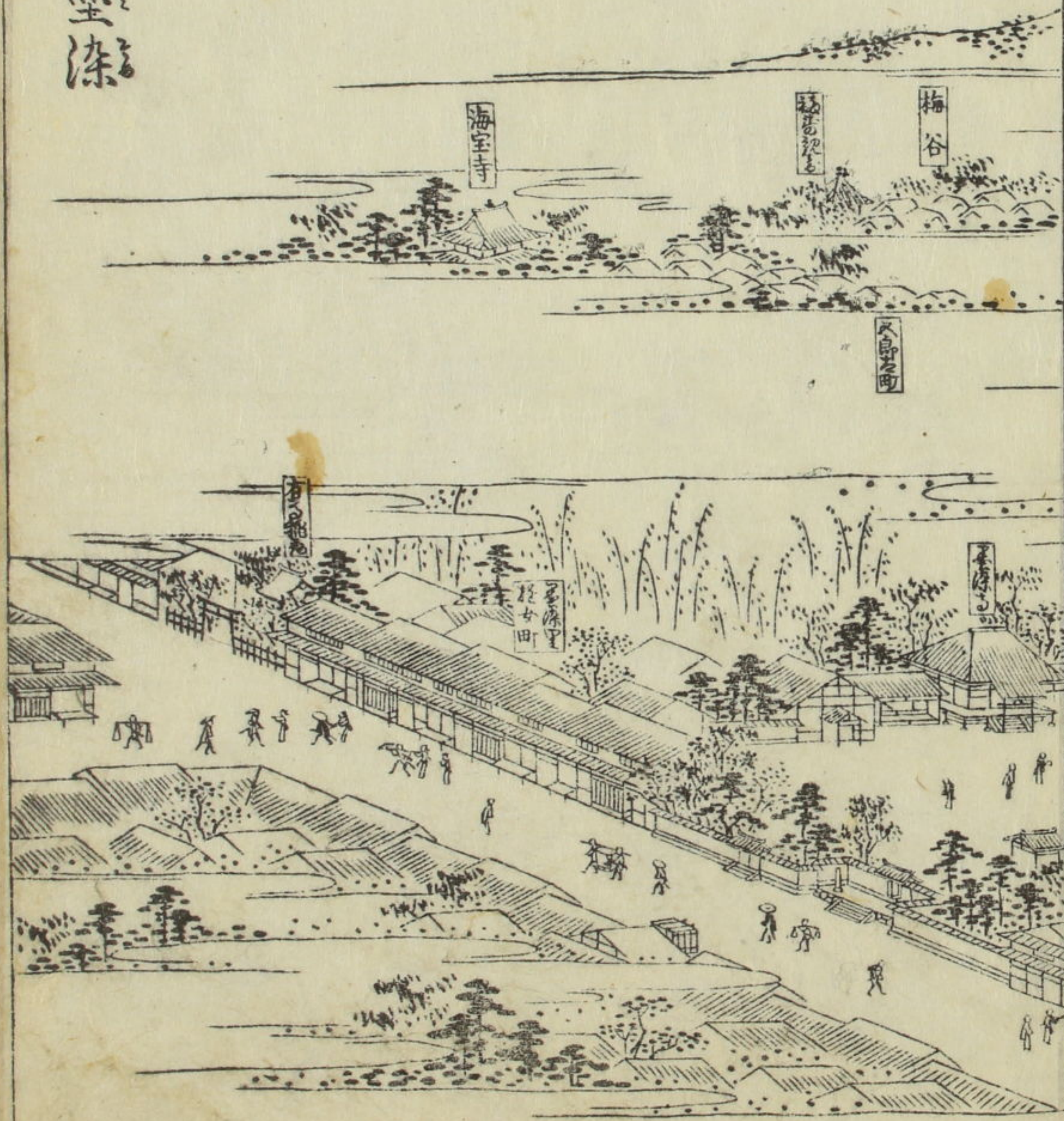
墨染寺は日所南側あり貞觀帝 情和 隆延のころ小寶祚祈のふ大相國
天皇

忠仁公は建のいし貞觀寺の旧地と今ハ法善宗ありて日秀上人因基に

慶長のい方太書院魏くくして秀吉公も所成ありり所あり

墨染橋 堂の前あり件の和ふ
墨染井 當寺の門前町の西茶店
のまふあり由來さるるなり

伏見墨染





源州
 四位少將古跡
 竹澤寺

竹澤寺
 宅地

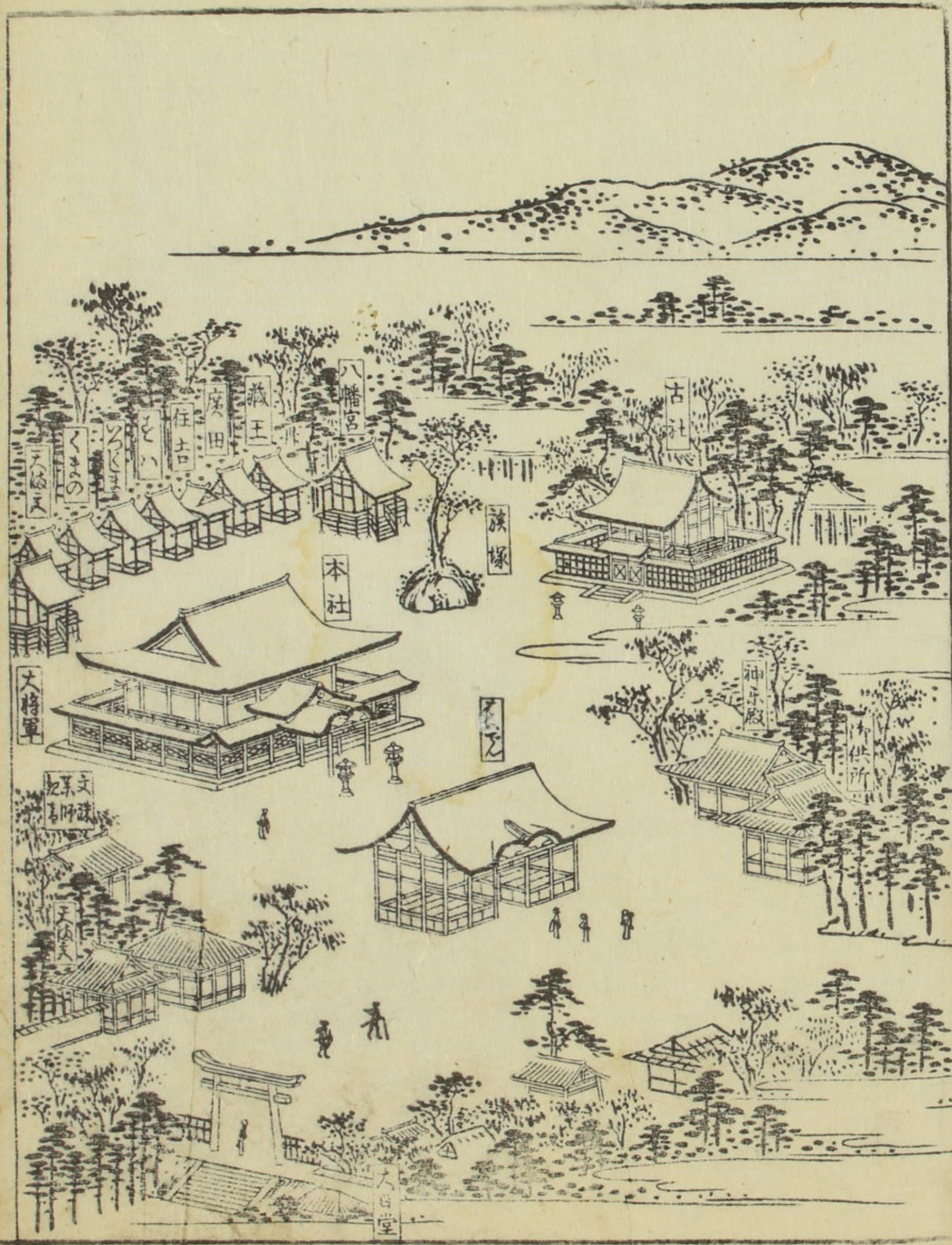
方丈

欣澤寺の墨漆の南小あり源其宗より本尊の阿弥陀佛安坐の像
聖徳太子の地いし源州少將の氣宅あり 寺記曰四位少將源其宗平
十三年二月十六日所より少將の塚小野小町の塚 堂のうしろの東
少將の塚小野小町の塚 堂のうしろの東
墨漆井の竹小 少將の塚小野小町の塚 堂のうしろの東
大見の城(所)ありとの道(所)あり 道元禪師の石像 道元禪師入宋の
後(所)あり 七瀬川局墳 石像の
竹下道 竹下道の

源其宗の竹の下分るより少將の塚小野小町の塚 堂のうしろの東

社れやい源其宗の墨漆の南小あり本殿に中央に舎人親王の早良親王
西の伊豫親王政家あり 本年朝武功の神と配祀し神武天皇神功皇后日本武尊
舎人親王と天武天皇の皇子より天平實字三年小追尊の崇徳蓋致
皇帝と號と 日本記と撰しあり 例ふに五月五日より孝子武具徳尊て
走馬とあり光仁帝は神武天皇應元年小異國の蒙古日本へ攻めり

聞へたりを天皇第二の皇子早良親王と大將軍として退治あるなり
宣旨とゆつ親王當社小祈誓して五月又見出陣し神威いらまると忽暴
風大吹来り蒙古軍船浪小くし悉く亡びたり吉例よりて毎軍陣
のの粧とて天下平安に禱し當社より兵政所より所謂小なるもいふ
旗塚 本社あり小あり神功皇后三韓 蒙古塚 當社森の中七ツあり今詳
退治の後旗塚あり埋ありあり 蒙古塚 當社森の中七ツあり今詳
埋ありあり 力石 蒙古塚 當社森の中七ツあり今詳
埋ありあり 埋ありあり 埋ありあり 埋ありあり 埋ありあり 埋ありあり
源州野の藤林の山とて大志谷より竹田里南の墨漆の竹指
と限らむの 欽明天皇の御代に化人來りて君り
秦の大津とてその夜求く補佐しあり天下安泰と有りて
後於て曹司小社の香取圖として尋せしをいふは源草里小住より
茂連て朝親し天皇踐祚の耐大藏卿小住のいふは四夷降ふは
く日本記よりけり桓武天皇の陵の東の山本谷といふ所にあり車
塚の天皇は神武天皇埋し所とて神武天皇鎮守松霞の谷 西務の谷



ふじの
藤
本
林
社



世小端牛の佳節
 武人形とて
 蒙古退治の吉節
 たりぬ。



藤元森の系ハ毎午
 五月又日ふして當社の
 神蒙古退治れ為出陣
 一ノ月入り春ハ
 音宮入り神前不鐘と
 録々おの目ハ一橋橋
 友の志や々々
 起り馬あり



瑞光寺の御草極楽寺村あり佛殿の本尊の釋迦佛長三尺六寸五分明曆

元年小元政上人草創ありて法華道場なり當寺塔の字に茶師堂あり

元政墓佛殿の西より塚の主人の竹取植る之政法師

道の記之政曰菴也

此の御門日蓮宗あり常の佛れねり人ぞ

春れねり釋迦ふ涼しや秋の色

鬼貫

昭宣公の墳瑞光寺の門前あり大塚あり二十番作巡十間餘之上小社ありをさす

古今堀川の老公昭宣公身ゆりふらぬふ茶のふとさるのりふらる

を憚りてわらわははもあさりのう茶ふれ廻りて僧都勝延

極楽寺の御草極楽寺瑞光寺の地大鏡曰源平を并川にゆたのり市佛陀愛

帝に供奉し爪のせゆるぬれぬし諸佛ふりりといは爪を求る所みと伽藍を建んと

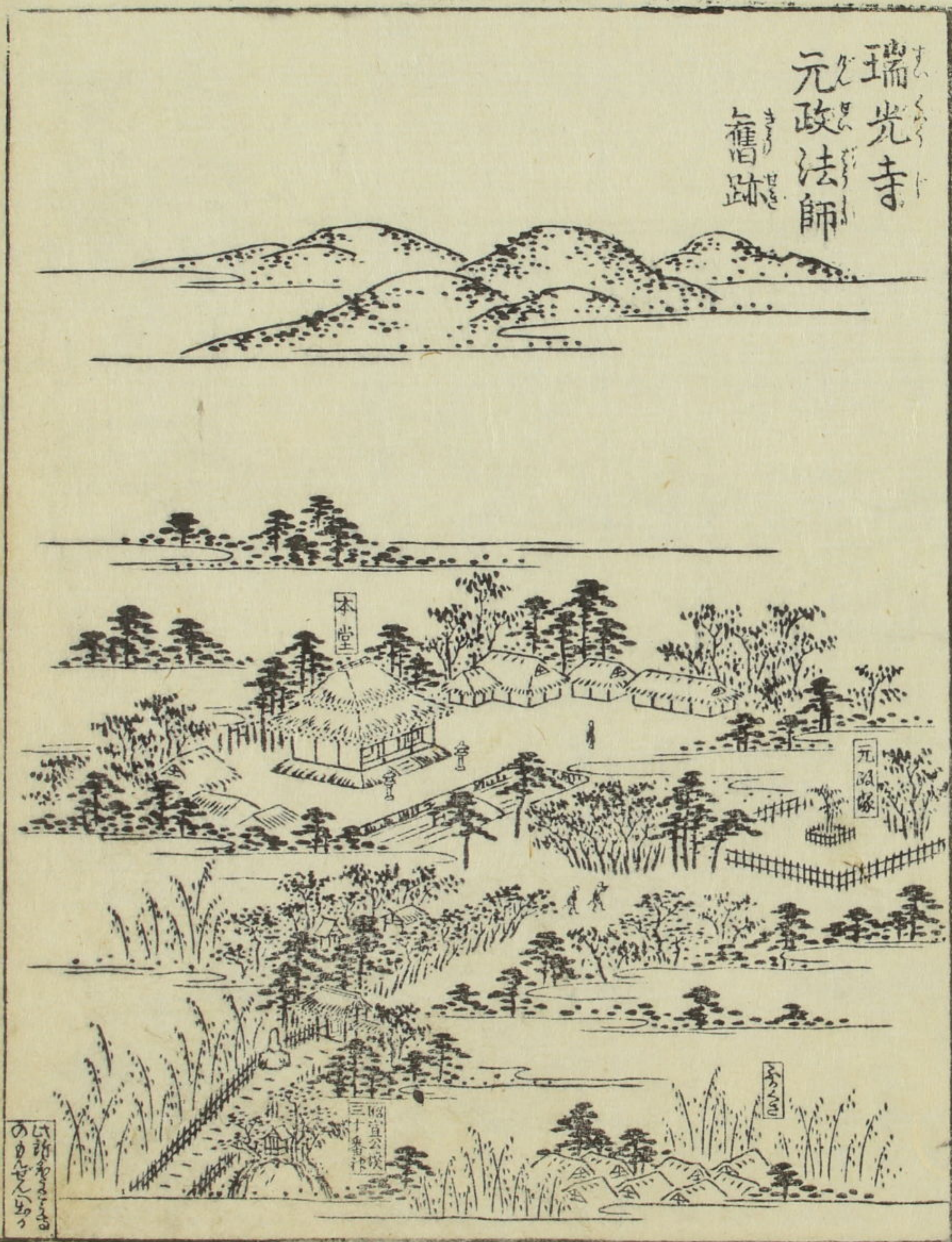
保胤極楽寺の賦東公の勝地象外の境壺中の玉あり巽の碧羅ふあり

翠浪の湧り如く谷水の玉虹の流とねとふわさる具勢千方女のす村

如し飛泉をを細しとくも具聲遠境小圃ゆく今此宝塔寺七面公の

五十四

瑞光寺
元政法師
舊跡



いずれをさす
のりせんらう



寶塔寺

五

元弘古跡

百丈山石峰寺



近年
百丈山
石像の
五百
遺蹟と
造立
聖徳太子
安小

深草山寶塔寺瑞光寺の北より法義宗ありて本堂の釋迦多宝の二尊高祖

日蓮上人の像と安重に廟塔の日像上人のあり題目の石塔婆ありて下小

日蓮日朗の遺骨收むる日像の説法石釋迦千鉢堂の内なる鎮

守社ありて千番神と多る七面明神社を本堂の後小ありて是經宗擁護社と

十九日鳥居の額を政上人の筆と堂裏に舊極楽寺ありて真言律宗兼あり

延慶年中に住職良桂律師日像上人の教法不墜して法義道場と改む

百丈山石峯禪寺の宝塔の石像の圓山の芝原の二世千呆和尚の遺蹟と

佛殿の釋迦佛額の濟世法王と左右聯あり共小千呆の筆と表の額の

即非の筆ありて高着眼と書け

薬師堂の佛殿の前小ありて本尊茶師佛長閑守惠心僧都に代りて多田

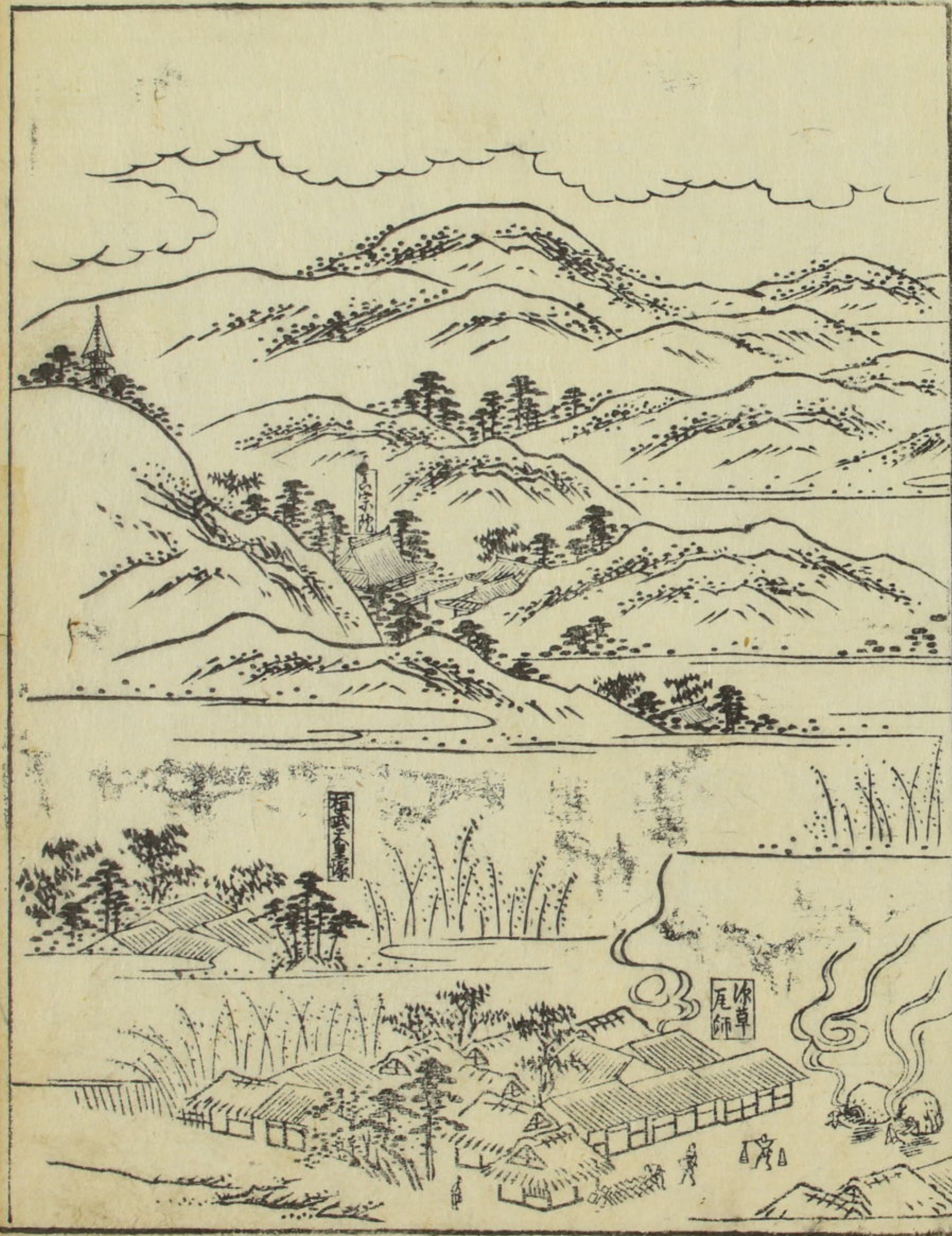
満仲公の念持佛の村上帝清宇天徳二年小攝州多田郷小抄を満仲公

伽藍造営ありて妙羅連山石峰寺と號し本尊安重に其後文永

の兵火のくりに諸堂回祿小なりて耐はる像石函小收り中を埋まあり

霜星累りて慶長元年の春沙羅（夜）あり御余れ夜怪み其光の本
と穿し六ツの石函取得たり蓋沙羅連山石峰寺茶師依の銘あり則一字故
嘗て安室は日八年来菴主宗玄のつゝその小室中の靈言あり非近所小
寺に遷し安室を普仁と化善と宣宗玄佛意は但て自脊小肩をた
小室より五条にり因幡堂小暫安奉一程あり五條の橋東若宮八幡の名不
堂舎とてわたりて石峯寺と号し宝永に頃黃藤千呆和尚常小はまに直で
薬師堂小尊信ありて曰我異國より日本へ渡り其壁山の祖席小司職と
事偏小靈佛の應現ありとて厚く瞻禮恭敬せしむるを公命ありと
今れ如く百丈山とてわたりて尊像城の峰寺とて號しり
茶碗子（清泉の然る當寺の門前南のくたあり）
即成就院と源草れむと大龜谷小あり本寺の阿弥陀佛の坐像之脇壇小二十
五菩薩もい惠心の依は無像の惠心僧都巖嶽横川に母かて説法あり
そ人の老翁ありわれ非れ南伏見里小住との二齋と捧ん事故と惠心具

詞小應して伏しある指月のかたりれ州唐より翁立して佛回小指極樂淨
土の寶味ありと捧し六僧都奇異のちいれ老翁の命をいふを我
佛在世あり唯摩居士の化現と師の法徳感してあふ来り惠心を取たりて
拜し冀正眞の如來依釋せんる依預小翁則西に空に向て敬禮しをれを包
終して紫をぬがひたる樂と共本主阿弥陀佛二十五菩薩空中に現れ
ゆゑあて老翁諸とも西に天を飛る僧都感信の餘り則來連の相友自刻て
當寺の本寺とて又壽永の頃茶師與一宗高平家追討のる出陣の阿
當院は直で祈誓して曰今度我場におかき登坂降くゆめ當院を再建と
るしと則佛前の幡とて笠布に西海より檀の浦とて扇的射て名譽と
天下小室に是本寺の擁護ありとて堂舎依修造一願を成統の奇特に
世小室よりわたりて即成就院とてわたりける
那須與一宗高石塔（堂のあり高さ大計あり）
軒端梅（塔のあり高さあり）
由來洋あり



即成就院
 那須與市宗高塔



大亀谷と藤の森より勸修寺を経て山科迄分岐る街道あり（此所小茶店ありて容貌艶くた女ありと云々）

勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大石屋鋪 勸修寺より七町あり乾山科御所の山岩屋明神れる場先小御殿の中心あり

御門跡と称し氷室池 當寺の南中

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

田村磨墓 栗栖野醍醐道のかき林の中あり今所と馬脊塚と云

栗栖小野の勸修寺より北花ふのふりたるの村あり

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

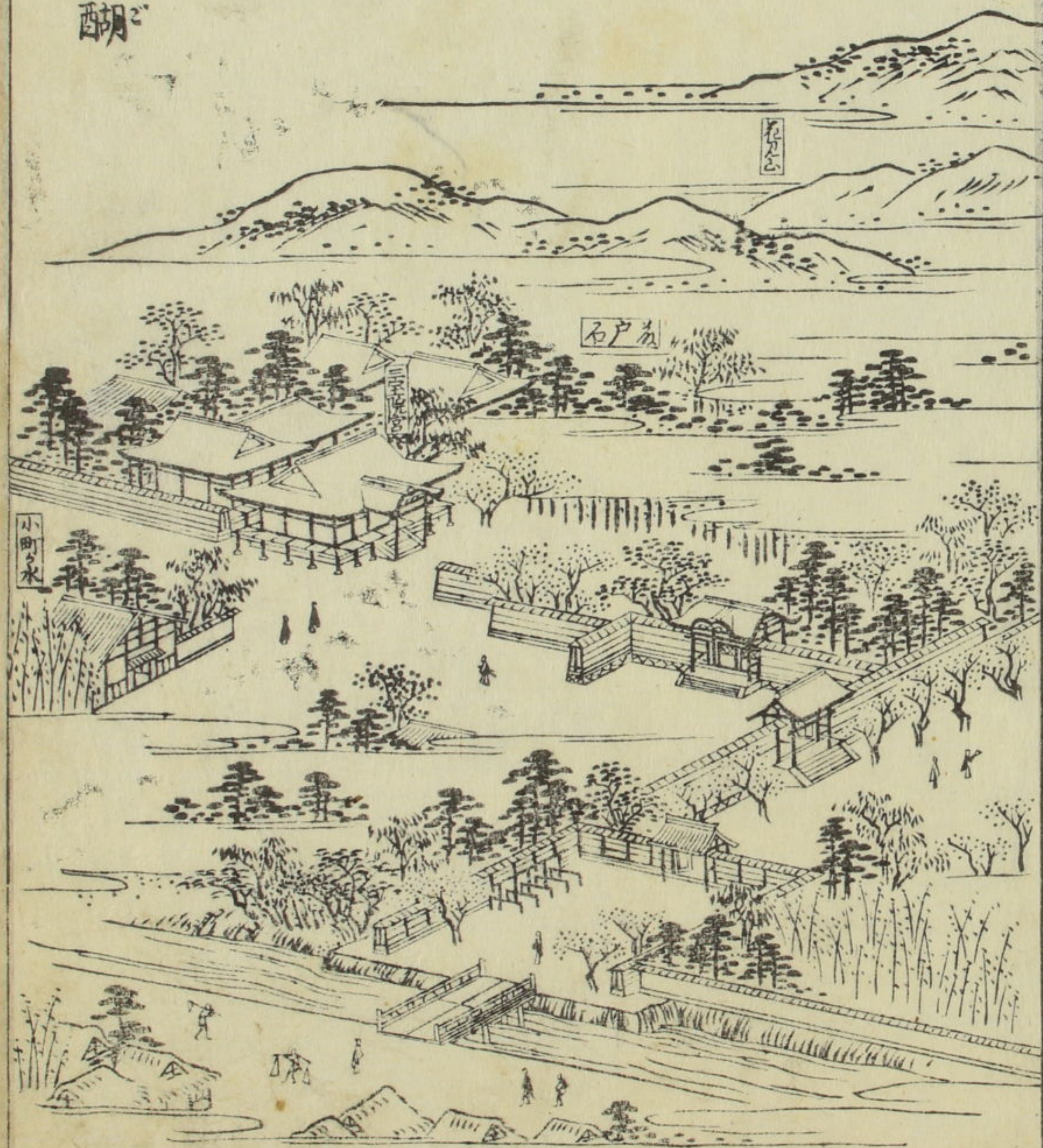
大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

大宅寺 勸修寺の北大宅村の南あり古所大職冠藤足公の居館あり今昔曹洞宗

下醍醐



五重塔



上醍醐



深雪山醍醐寺小野南より山上に醍醐とらふ麓を下醍醐と號し示す

真言宗ふして修驗道之 聖護院の流義 用基の聖寶尊師

理原大師 延喜四年の建まみ 醍醐末雀村上代帝王の御預り

法務の三寶院御門跡と稱す 攝家の御連枝 當の石礎と號するを聖宝

尊師佛法相應の靈地を得て為一七箇月祈念々々五色の雲當の

峯小聳ゆ則小昇りまうま巡る小獨の光翁來りて清泉を獲て

醍醐味なりとて尊師のあまけい古佛練行の洞諸天衛護の御前

佛の遊處名神の所居之りは是地主の神榎尾明神之永此地は尊師

小獻へ早く精舎を營て廣く佛法弘群衆を利しめり擁護せし

云終て見つ及又指の多る三寶を唱へ尊師の感涙を流しは由は上卷

延喜帝對小敬感ありて除病延命のま當の諸堂を造ましめ

本堂 茶師如來と安を回縁の 岡山堂 弘法大師理源大師の 五重塔 佛言

曼荼羅と 清淨権現 沙迦羅龍王第三の娘の御坐り 藤戸石 三寶院の御中

奉尊と 九月九日山の前を猿樂あり

藤戸浦にて佐々木之郎盛細高名や浮洲の

岩之天正年中聚樂亭よりは所は松

長尾天満宮 本堂の北邊の九月九日して神樂 花見山の地 天正軍記

上醍醐 麓より上りて二十町ありて一町毎に標石あり石面に梵字ありて権僧正

成賢の尊神の御坐り 不動堂あり 婦人の登山の御坐り

清瀧社 龍神の御坐り 醍醐水 御坐り 五大堂 不動明王を岡山

理會僧都の御坐り 延喜帝は清願より朝敵如意輪堂 本尊如意輪

平將門降伏の御坐り 延喜帝は清願より朝敵如意輪堂 本尊如意輪

聖宝の御坐り 西園院礼所 藥師堂 本尊藥師佛の惠理僧都の御坐り

中興の御坐り 祖師堂 中央聖宝尊師南の弘法大師の御坐り 又尊師大師

の御坐り 寂靜谷 祖師堂の御坐り 毎歲七月又日六日當の御坐り

堂内の御坐り 寂靜谷 祖師堂の御坐り 毎歲七月又日六日當の御坐り

丈當の松松翁鬱として常小白雲樓を築封じ山を巍とせ

して旭日れ出ると遅く靈泉の混々と玉と注ぐ如く堯の附徳

茂く清平なるを醴泉生夏後の附俊才官小を附と則醴泉偏と

といふも醍醐水のささいささ

一言寺



醍醐天皇陵の二寶院の小人家北ふあり

人皇六十代の帝御諱を敦仁
宇多帝第一の皇子五位二十

三年延長八年九月廿日崩す
壽筭四十六延喜御門と稱は

朱雀天皇陵を日所陵所ふあり

醍醐帝の皇子ありて六十一代の主上あり
五位十六年天曆六年八月十五日崩す

聖壽三十歳
天曆御門と稱は

一言寺を醍醐の南里ふあり

眞言宗ありて
醍醐寺に属は 本尊を千手観音ありて

安阿弥の化有り内侍堂又も當寺の本願阿弥内侍の像を安置は

少納言信西の
女あり

谷南禅院を醍醐の巽ふあり成賢僧正隠遁の地有り本願阿弥院

佛の坐像ありて春日の化有り側ニ地藏尊を安置は
此里れ農太常に尊
信々れを一夜の間に

多くれ回極極益ありて
世人田植の地蔵と號を

立取山 醍醐のむらり民村多し巽の峰ふ成徳の園場あり
岩向寺ハ五塚あり之町より東ふありて二里ふあり

正本よりをのたきわねん村雨くれぬ笠取のふ
西行

笠取のふ依たのみしむる時ぬふ神を祀りてあり
頼基

日ひ野の
薬くすり師し



日野薬師と言寺の南日野村あり法界寺と号に本尊某師如来の金銅
此坐像之日天月天十二神二王等運慶の化して元禄安重臣
翁に靈驗 舊阿弥陀堂ありて後壇より六の跡乃像に安重臣
定朝れ依之初を日野元中辨資業卿の本獲りて諸堂魏々より親
堂五大堂大門の蹟今田畑の字よりて當寺れいふあり日野村を則
日野家別荘の旧跡あり 今土人内理

重衡れ塚日野村桑園の中あり 二位中将重衡卿治承四年南都東大寺
の後重衡卿塚餘倉より移りて今に在り 長明方丈石日野村のむすし五町計外に
武丈計一説又名坂千人石といふ 尤も堂取炭山の住還ありは此其
地勢北風方丈記にくりくれをさくは畧と時々のをがに巖の中より清泉涌
所あり炎暑の節熊夫の舌坂潤はせんと弘法大師の巖と穿りて
東鑑小曰建仁元年十月十二日鴨社人菊を長明入道 は名 俗雅經

朝臣之舉此間下向奉謁將軍右大臣實朝公云

方丈記小曰

任家則降名居士のむすしとけりといふことあり
とてりて行不周盤盤持行いたふも及むは
きとされ貪欲の報のむすしとけりといふことあり
とてりて行不周盤盤持行いたふも及むは
とてりて行不周盤盤持行いたふも及むは

月くけり入山の塚もはくろりたふぬきり成るるも長明

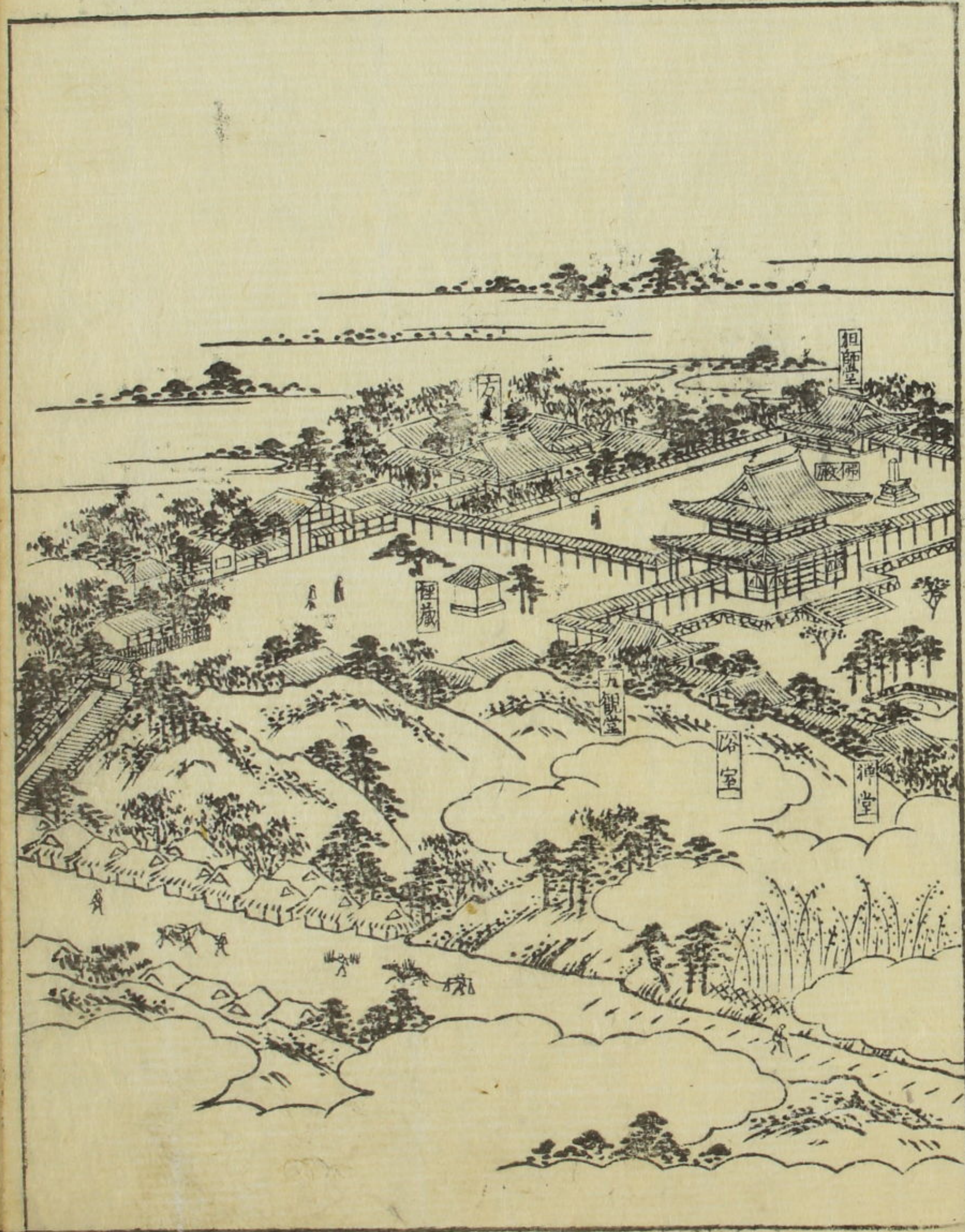
石田社と醍醐の南あり石田社の民家社中あり天照を神日吉山王
翁の山里の氏神と云 和名は石田の小山

千載 継子母石田小智のつが草をさるる心くり成るるも長明

日 柘らる石田の小智れ風小の流しとれてのりるも長明

小栗栢里石田の西あり山所より本幡を成然て伏見城ふりしるありされ

明智越といふ 天正十一年明智光秀の合戦に敗れ江島坂本に城を築きしり
い道に逸る小栗栢の土民を竹の鐘を以て害はれしり小栗とせり



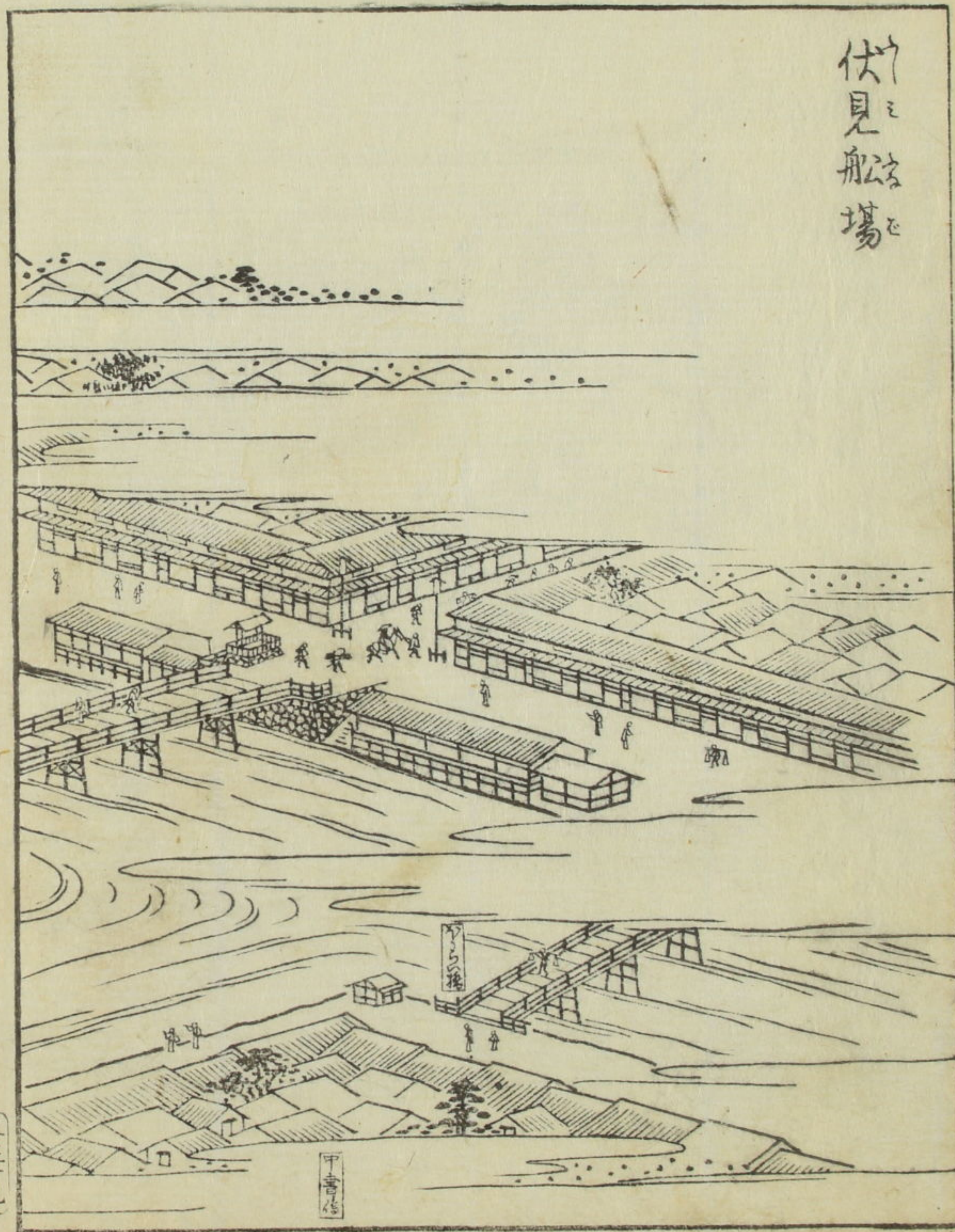
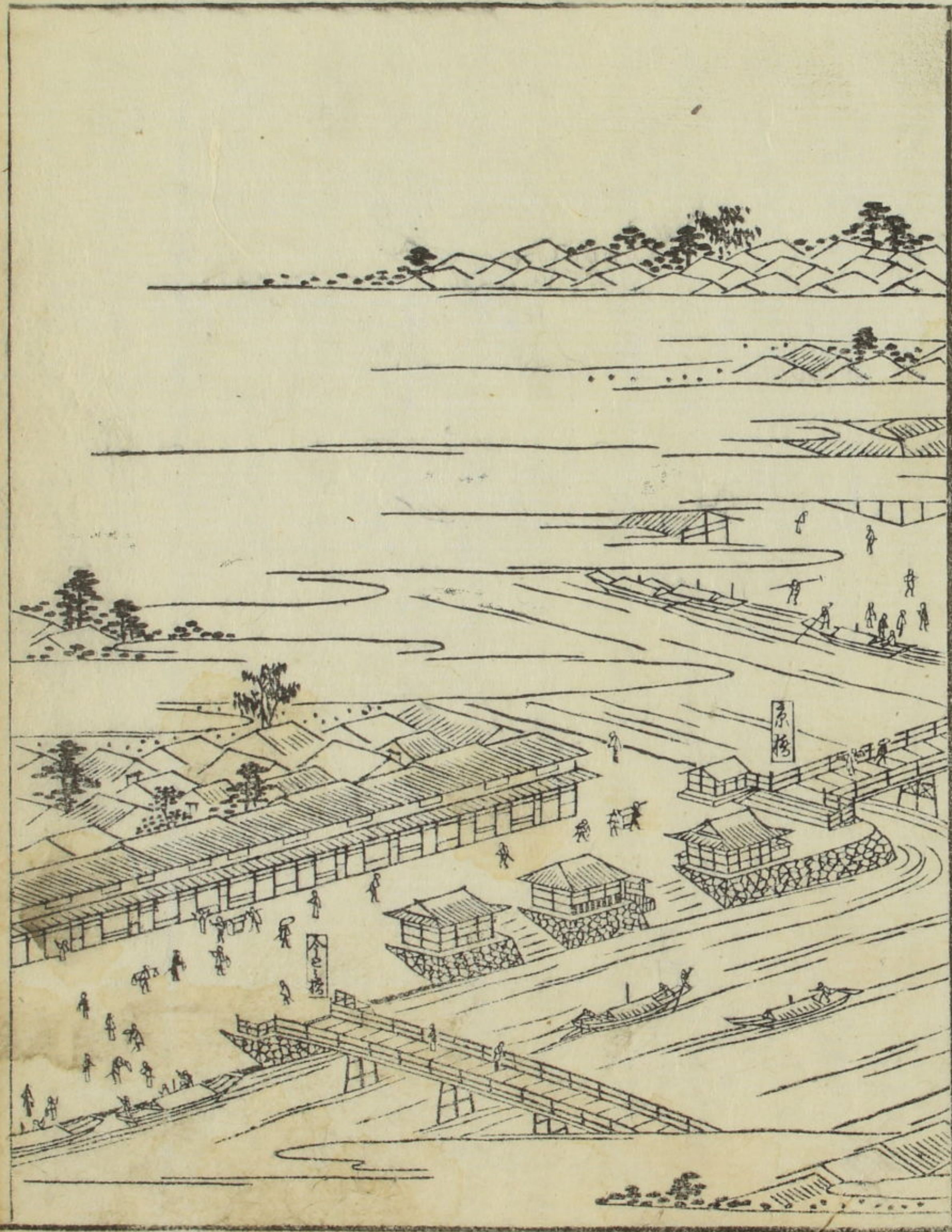
佛國寺





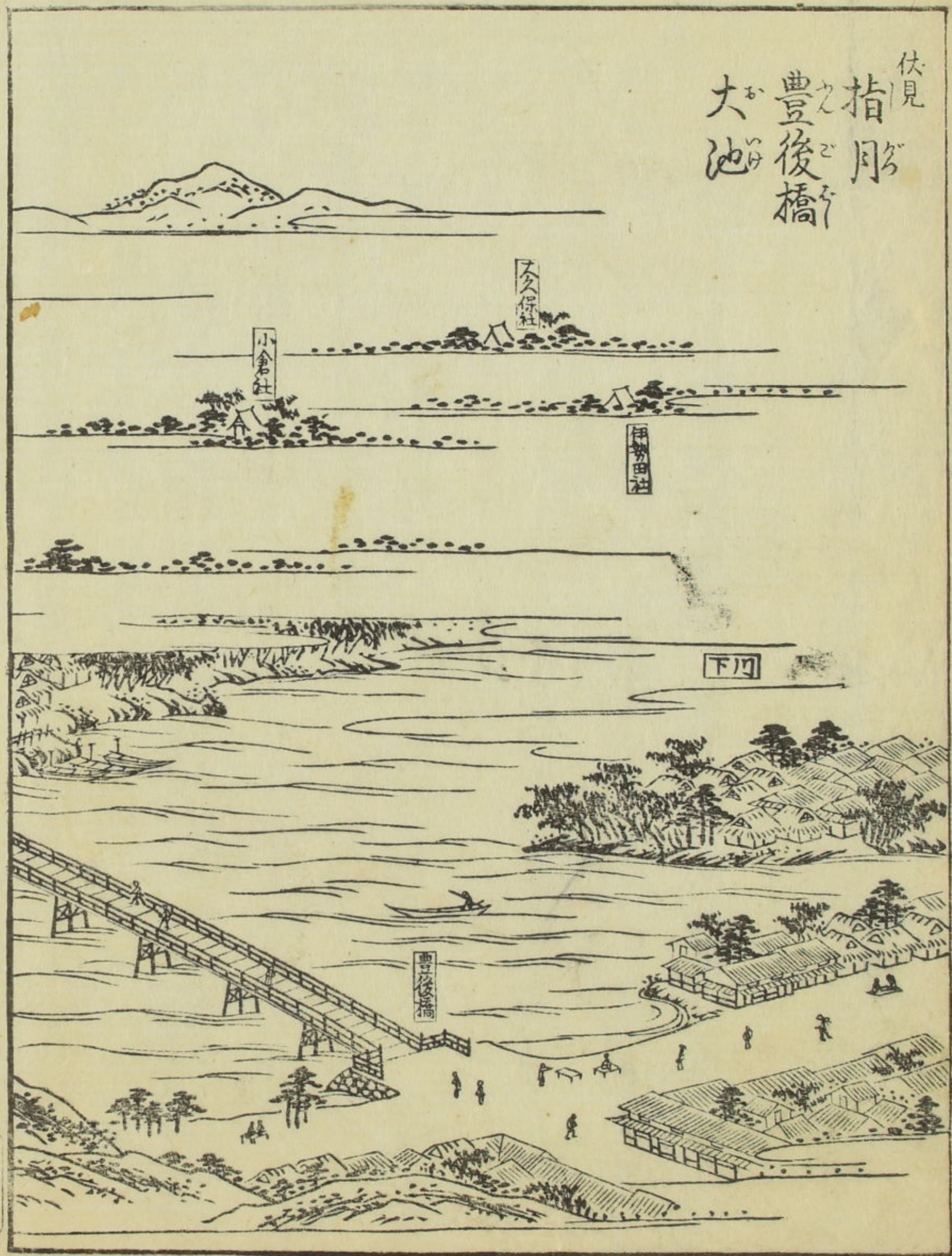
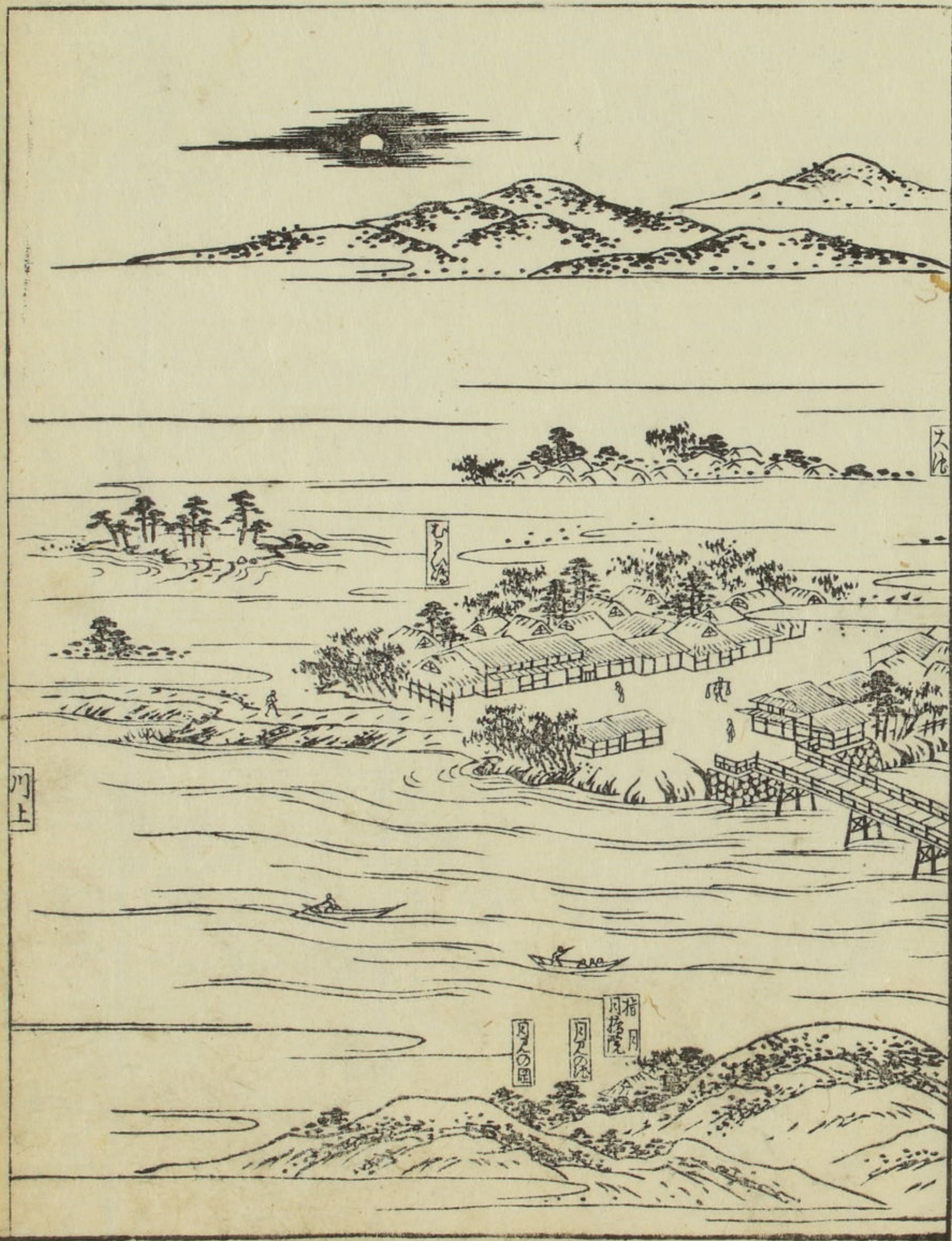
御香宮

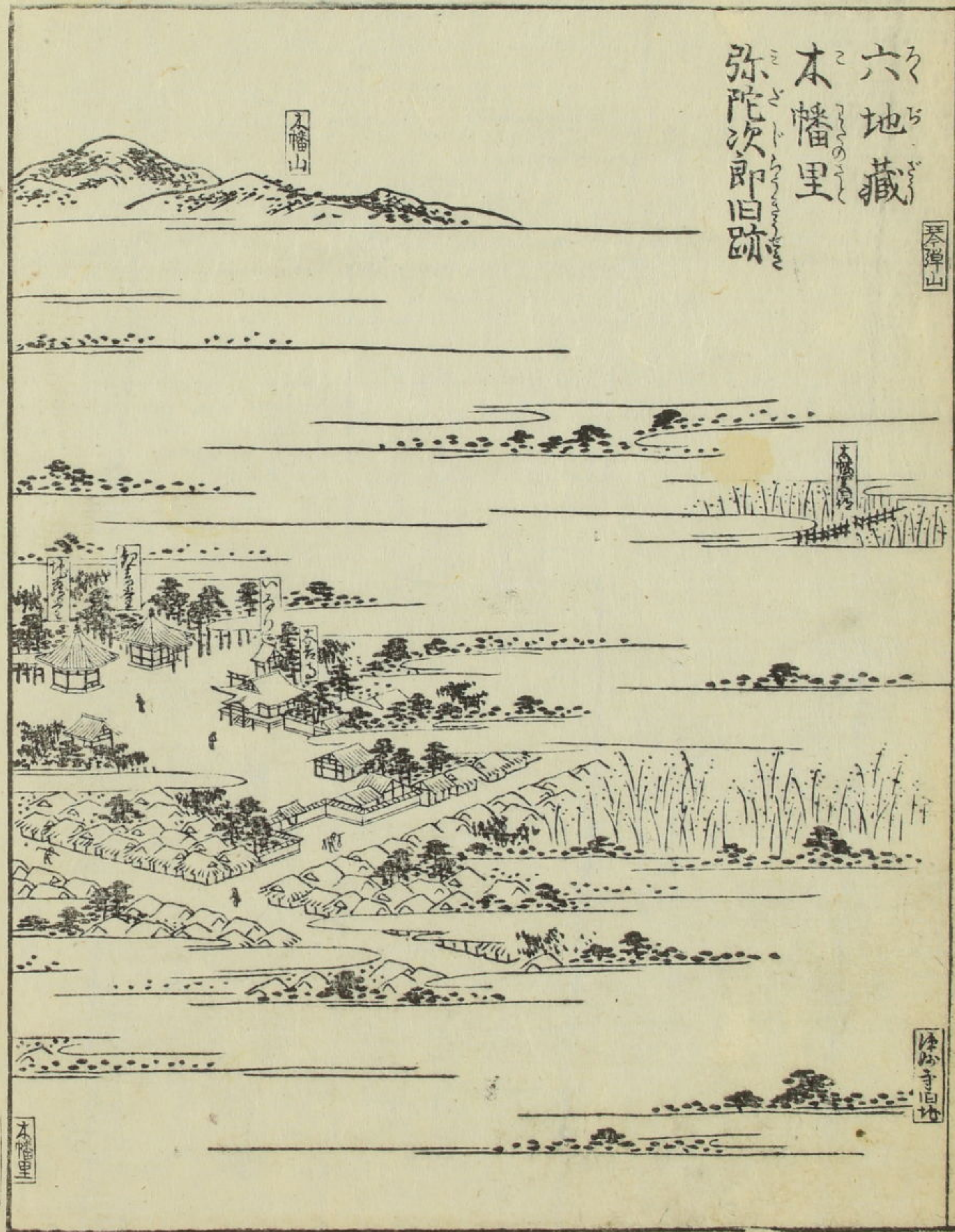
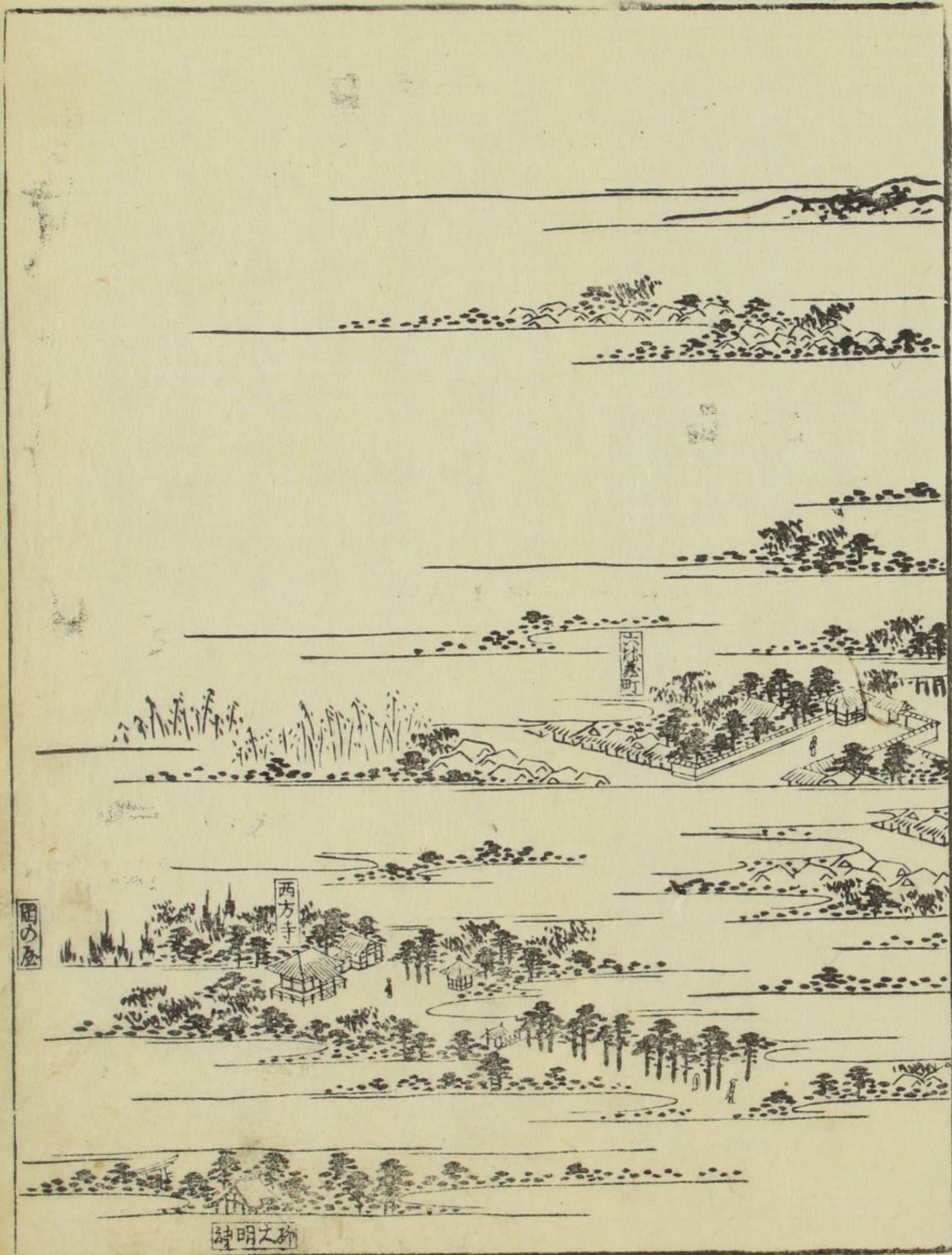




淨香宮を城山の西なり本社は神功皇后が坐す地は淨鎮坐れり久し年
 歴詳かた文祿年中伏見の城といふ事ありしにや一海谷大急谷の東
 小川のほとり神崇極しくなれど又旧地を遷坐せり
 九所堂初と九坐の神と多神樂も九基あり淨香水鳥井は傳ふあり
 水よりて名を賽石鳥居の因なるの向ふあり詣人より實教なる
 所あり世人めぐる 拜殿南の門 伏見の城中あり一坂ありん門と
敗れ善花受ぬり
 系橋のわたり大坂より河津と登舟着て夜舟益のありと都に
 通高瀬舟宇治川へは舟中とてをりて四つ川に渡り家六旅を
 をりち驚忽ゆる聲あきて響應るるとけ所の風儀なるべし
 巨掠れ入江の豊後橋の南向橋より眺むる水面あり 土人の會の
おはしり 中心和街及
 わりて五十町は堤あり 冬は蓮花河骨生じて炎暑と雖ものはり
冬は水もゆゆるりては凍結する
 十首 抄りく入江の月はわすえぬりて空と霞あり 鳥尹
 巨掠れや一海谷入江の南小余里れありま日明神とある 此里の氏神あり
九月十日

指月山月橋院を豊後橋小爪の東あり毘沙門天と安並は法大師
 化け地を洛陽般舟院れ旧あり
 観音堂月橋院の西丘れ上より聖観音安並は月見池 観音堂の
主人あり
 月見園指月の後とあり一名宇治見とて秀吉は所を樓臺に
 嘗て月夜賞しり入江とて姑蘇城に宴たけかりりしも鷓鴣花んで
 ひり張懸て銅雀臺小舞うてしも雨をげりて今淋しけ地を月
 ねとむりく照してむりし小登らん
 六地藏 指月の東八町よりありけ所のをり醍醐街道西を伏見淀乃中
 地藏堂 大石寺と号し淨土宗と本尊地藏菩薩に仁壽二年小野皇
 眞土と趣と生身れ地藏尊に拜し獲て後一本取つて六躰れ地藏
 とてこころみ當寺に安並は保元年中小平清盛西光法師に命じて
 都に入口毎六六角の堂をいふみけ尊像と配して安並は今乃
 地藏巡りあれりてまゝ





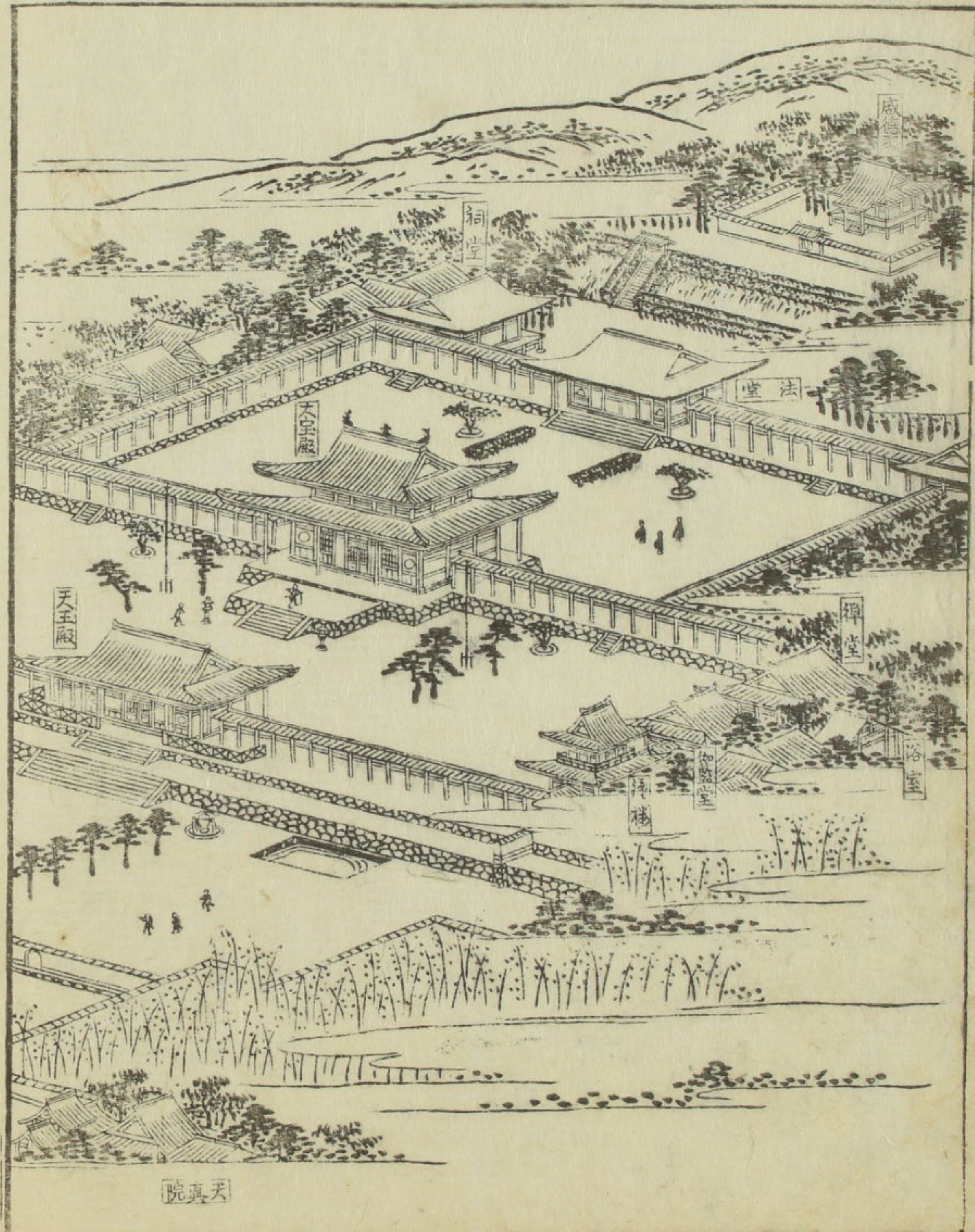
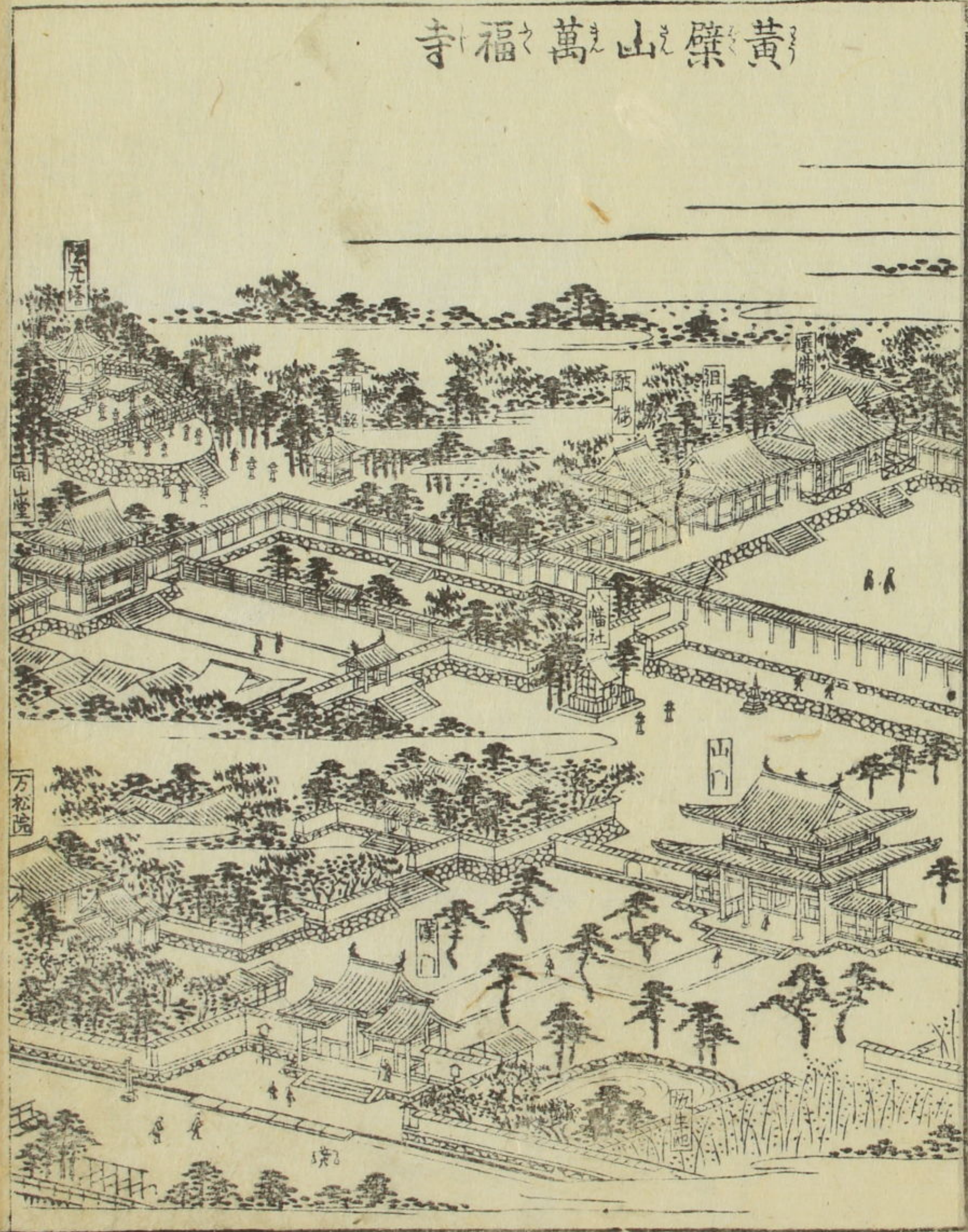
六地藏
本幡里
弥陀次郎旧跡

天輪山

浄心寺旧地

五十四

黃檗山萬福寺

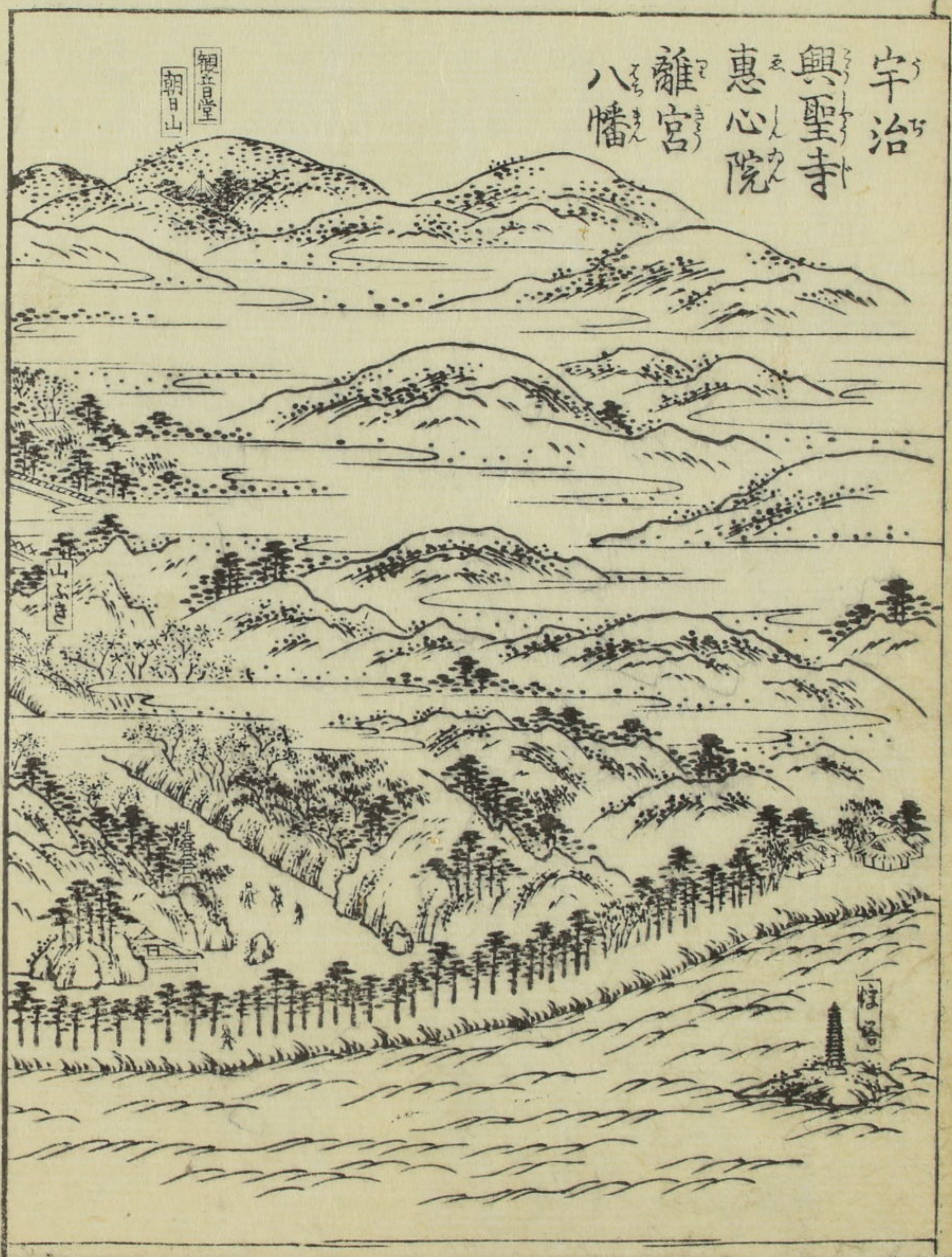


都の異字治れ里ハ
 茶れ名考みしと
 高貴れ調進氣毎
 の例ありて製法依
 境ふぬ〜びぬ〜
 公飲ちり卯の花
 咲そむらぬ茶摘
 とくけ里の志の
 の女白たも我と
 ぐれと腰小籠
 して茶園ふ入り
 奔れり〜くを
 び〜るお祝して
 奥〜るありさぬ
 陸羽の茶煙みと
 書遺〜ゆり



おのくわ
 茶摘も
 子規
 こまぬ





甲子年通りて血を絶たせり断食して死にたり其時悪逆を断りて善く終る
離宮明神と崇光後冷泉院の所宇
治暦三年十月七日正位とありけり
朝日とて離宮の後心なり
免道尊陵朝日親音ふわり

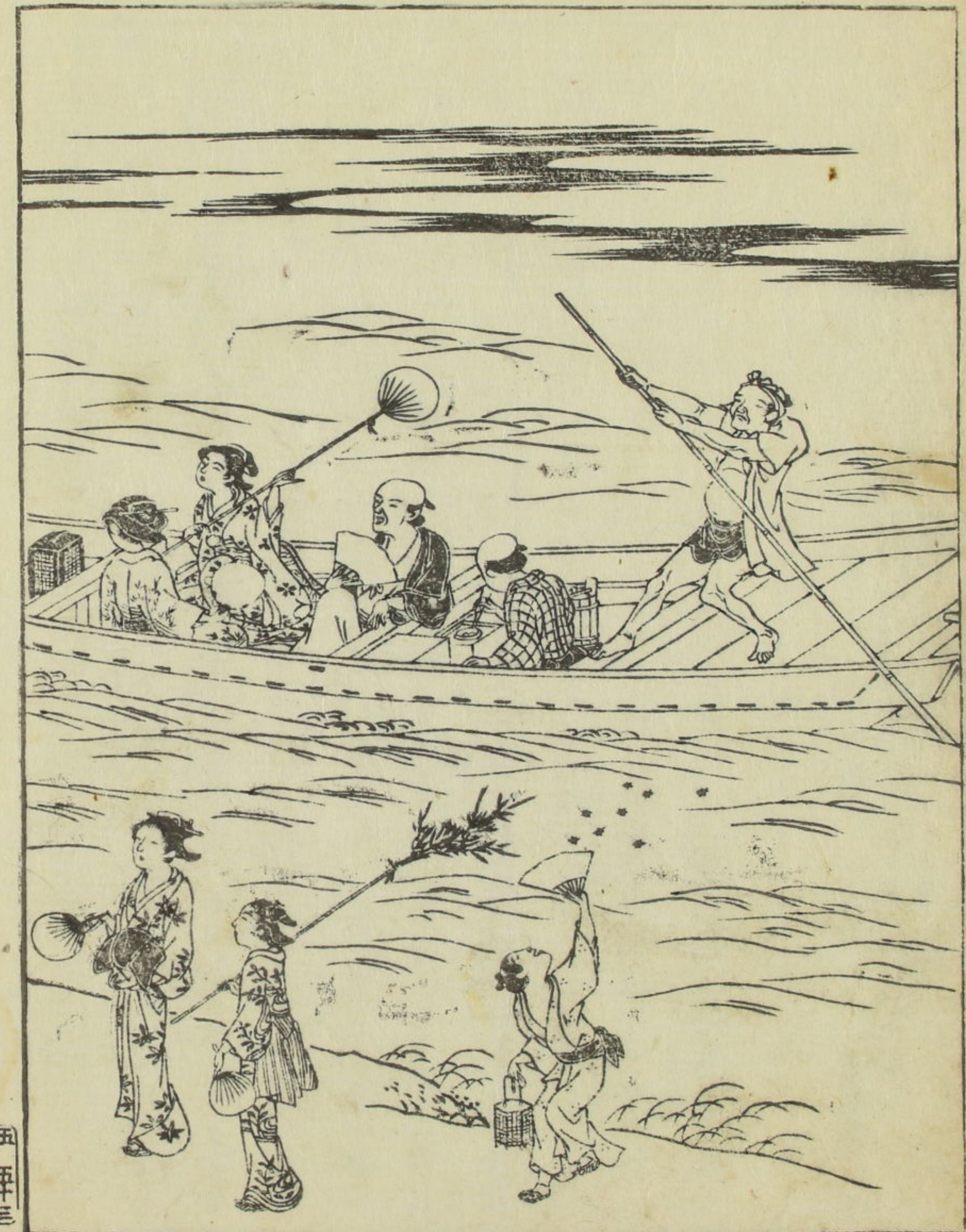
朝日とてけりたものきまり半そらふらふ揃じ 為家
朝日とてけりたものきまり半そらふらふ揃じ 資明

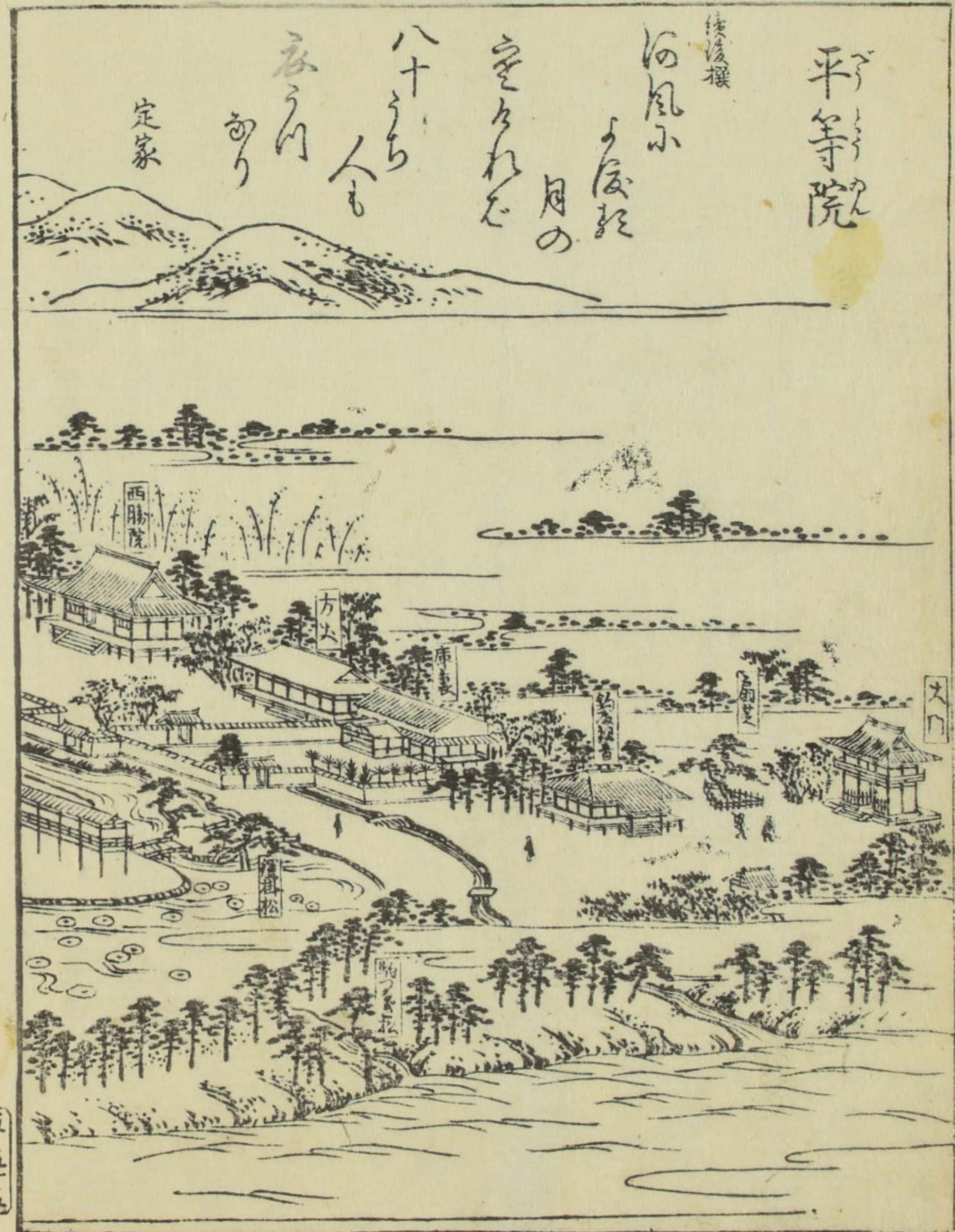
朝日山恵心院の離宮に南ふわり直書堂ありて開基の恵心僧都之本尊大日如来の
弘法大師の住持師堂に像ありて他又恵心僧都七十六歳の像堂に小安曇
本堂の額 持明院基時卿の号之因基源信僧都の和名有本郡の人
して姓を清原氏之獻山恵心法師小法久原密教とくきとあり一兼要
訣性生要集阿弥陀經疏大衆對俱舍抄曰明相違と著し恵心院の
僧都とあり唐南湖知禮法師小同書法はり々々を大又感歎し答
釋はりて五つろ寛仁元年六月十日徒すはありてくきとあり性生の
ゆつれと教義の疑はれと仰ぐとてみあへり其後後信

さけ上足慶祐法師を人取とめて其海修飯とけふくは身七十六歳
み天樂空小の奇香まのなほし中州本おとく西ふひきしとあり
趙宋皇帝僧都は道譽とて塔窟塚建教像とありありひるり少へり
新古今 我々ふまの極ふひけるもあぬも皆ひるん 僧都源信

佛徳山興聖禪寺(恵心院)の南隣る曹洞宗ありて開基の道元和尚の佛殿
み釋迦佛と安曇屋額 興聖賢 青蓮院尊純法親王の号之當寺へん
涼州里小あり 今雲津の南依持寺 正保年中万安和尚中興して諸堂を定
城主永井直政建立けり川卷よりいふと琴が坂といふたふ極おれとあり
ふ吹と透垣と朝日と依中より白松と接する珍虎と決り姑脚踏
又とて半治の川依れ舞火と銘ふはは依聽て龍け室ふ入庭と歎て
虎の堂小外とては禪刹のありとあり

ふ吹や半治は焙炉の白く付
親流亭 岸のく東禪院 龜石 中宿芝
かたはら 中宿芝 不とふあり





侍中群要小と成國
 夕涼の御細代より
 日毎小鮎魚と進
 とるんかけりし今も
 は例なくて孫の
 以の鮎魚と平等
 院より十町とくり
 川上楳ののりこの
 かりりて人の
 の肩よりし居
 早敷とやあはれ
 及上り興と針
 した李白の詩は
 鏡戸候と暮と
 ととけしもの
 換りてとて

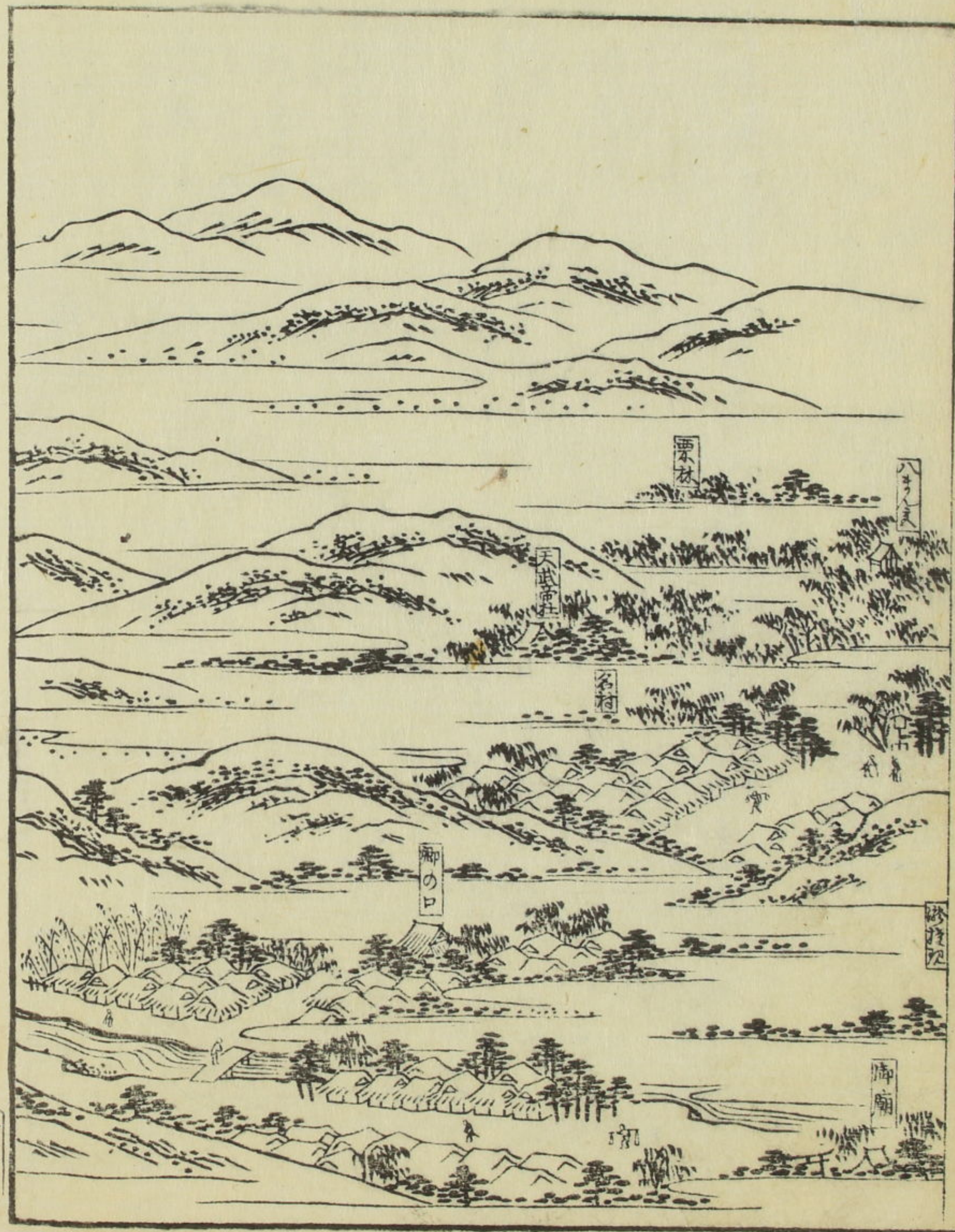


又氷魚とて
 毎年九月より
 十二月までを
 貢とて花鳥餘
 膳小にさり
 拾遺
 鮎魚
 身取
 うら川の
 網代本
 御代の
 ひとも
 さい
 つる式

漢人志



宇治田原名村
煮栗焼栗林



縣の社々平等院の後西門れたの傍ありなる所は削道鏡の靈ありとて一説に
宇治に悪尤府をなす人 信西と誦して常々学窓をまかり仁義禮智信と正しく賞罰
勲功と擧政務放きりて上下の 例案を五月廿日夜神樂一基あり

金色院白山権現を白川村あり 平等院より十八間 岡基を昭澄上人は黒尾赤尾
くは系を九月十八日之

宇治田原の平等院より凡五十町南にたつ宇治川右と云嶽巍々より岨臨
峻しくされ飯栗子と越と云 近津岨と云く岸小なる飯穂と道飯度く
嶽嶺飯樂て平中故ふ煙束の人懸り椋川の目じ

南に舟よりて薪と運送に早より 田原郷を四面みかふ系して中ふ飯村あり
南に牛馬の御来自由あり

大宮明神の郷口の良ありては郷内は秀沙神と云 系は九月九日神樂一基あり

田原親王の御朝の大宮に南あり光仁帝の所又りて施基を子と号は
猿丸をまふ旧名を田原郷御定寺村のむ 奥山田あり
近の園傍ありては別産椋村と云くまは猿丸峠と云く方丈祀は栗付の系と云く
禪丸翁の社と云く田上川をりては猿丸を墓飯をぬぬと云くは所と云く

栗栗焼栗林の田原郷内名村ありむ 降は系天をい世榮飯避て吉村あり
居の御大友皇子疑念飯獲と襲つて天皇あり こころまはしは所と云く

里人怪みくはひけく見ふれを楳栗飯やた又顔予とて上たり 天を
され飯をのそ我あつてけなれたけゆと飯多くと片ゆを小埋の里人

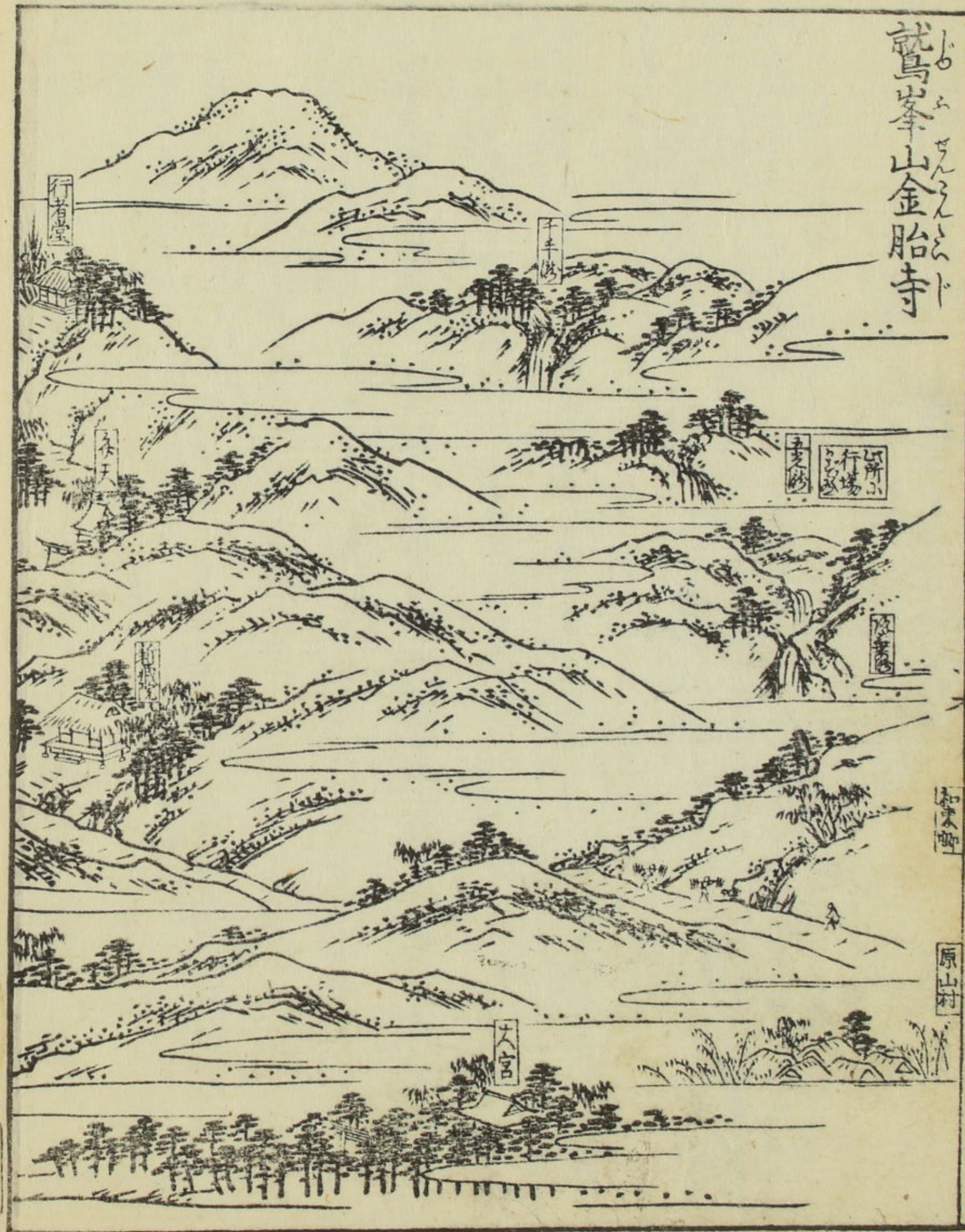
不思議小しを飯立とて遠大友王子をい傍に合我小敗し 自害ありありあり
よめて吉野王子位に即され飯を武天皇と稱は栗樹邊を飯飯 凡方四町の栗林

とるまのしを清栗柄とて焼くを飯前と云く 始栗人けして當は七不思議其之
天皇寶祚を継の吉瑞ありて今も毎茶禁裏貢上り 調進の時節公務る官舎と守後

八幡宮と栗林の東あり 田原郷中の宮と号はけ色のては
天武天皇社 八幡宮の

信西塚 大道寺村道の傍ありけ所より舊峯ふとまらりや
頼朝為敗れ我飯地は里を本とて中飯穿ら自埋り 亡びる人
本り忽飯出首と斬都上り 一保元和隆は曰信西あり
すの首飯の人ふりて空く くさくさ
片前と相人を行合し信西飯見て相 て曰清なるは法道の文人か但すの首飯は

大道寺旧名と大道寺村あり 今草堂とて飯飯あり
は所舊峯山の麓あり



就馬峯山金胎寺之和末卿内系村の巖あり 宇治田系卿より里本不道寺村より 天武

天皇の清宇白鳳四年九月小役優婆塞いりて天竺の聖徳より來りて

ハツの嶺へ八葉蓮華ふ表し釋迦嶽阿弥陀嶽弥勒嶽寶生嶽阿闍嶽

虚空藏嶽不空嶽妓樂嶽と號し巖頭ふ坐して修法と云ふ五七日あり

是當山の開基と云其後元正帝の清宇天皇六年の越の白山の行者泰澄法師

役方乃は慕つて登山し七堂伽藍を造宮に 後世に乃は其處に今

宗首の直言して本堂を弥勒佛と本尊と云 行基の多寶塔は愛媛の王城安

社 當山の鎮守石は日本金柱福滿権現八幡宮金剛童子と劫法は空鉢峯ハ

當山の絶頂あり寶篋印塔を建てる是北斗星に於て泰澄法師の所也

法の耐石上坐するく虚空を鉢と投らるに鉢雲中へ飛施るの末教と云ふ

歸る泰澄入寂の後鉢をいじりて埋て空鉢峰と云ふ所 世の多あり所

當山東北山脈を役行者泰澄の二師密法修行の靈嶽あり 和州金峯山と云ふ

拜しける俗まされと云 比多輪東眼行道石千手勝一の勢と五光勝一の勢といふ

巖と傳ふくあるお初旭小降三世龍 鐘懸 胎内潜 登山石

仙人窟 石塔岩 舍利石 佛岩 水晶山 熊倉

黑白岩 安住岩 天狗岩 龜石 兜率龍 老龍

加持水 馬足洗水 養生芝 城段の耐け所と云ふ所のひひひ

中ふも比叡愛宕の嶺高く聳右の方を琵琶湖の漫々たる水面

雲と連る三上鏡の翠巒を旭と鮮なり子平のくくを志貴生

駒金剛山蒼天を西海の海原兵庫の例勝法海居る見れ

の客とありぬ衆山は秀て巖頭嶺々として撫まも法歩あり

老杉繁茂しとる白日照埋んと周し李白が天姥の吟ふ五嶽を支

一天台の四萬八千丈もさるに相對と云



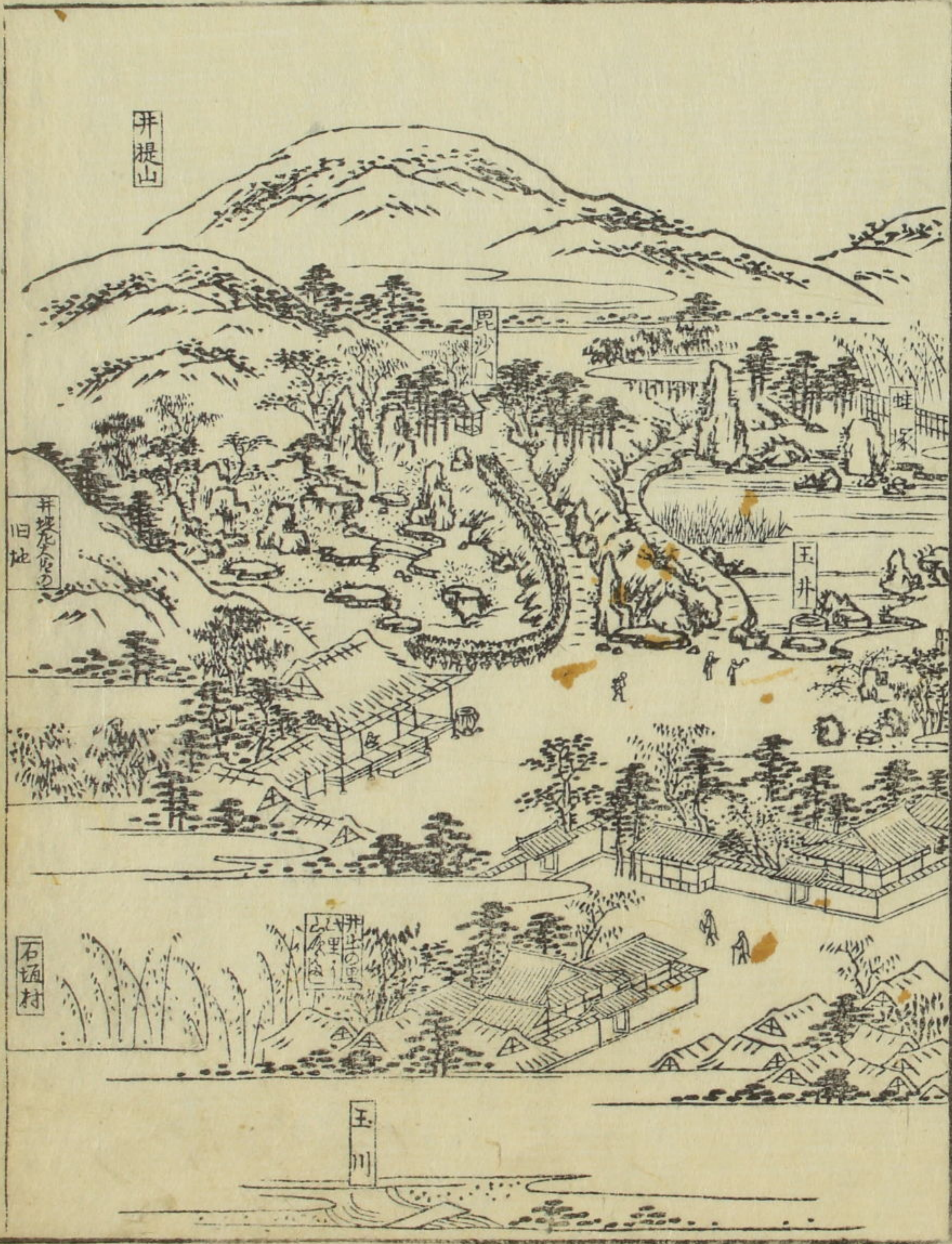
文殊石

百丈石

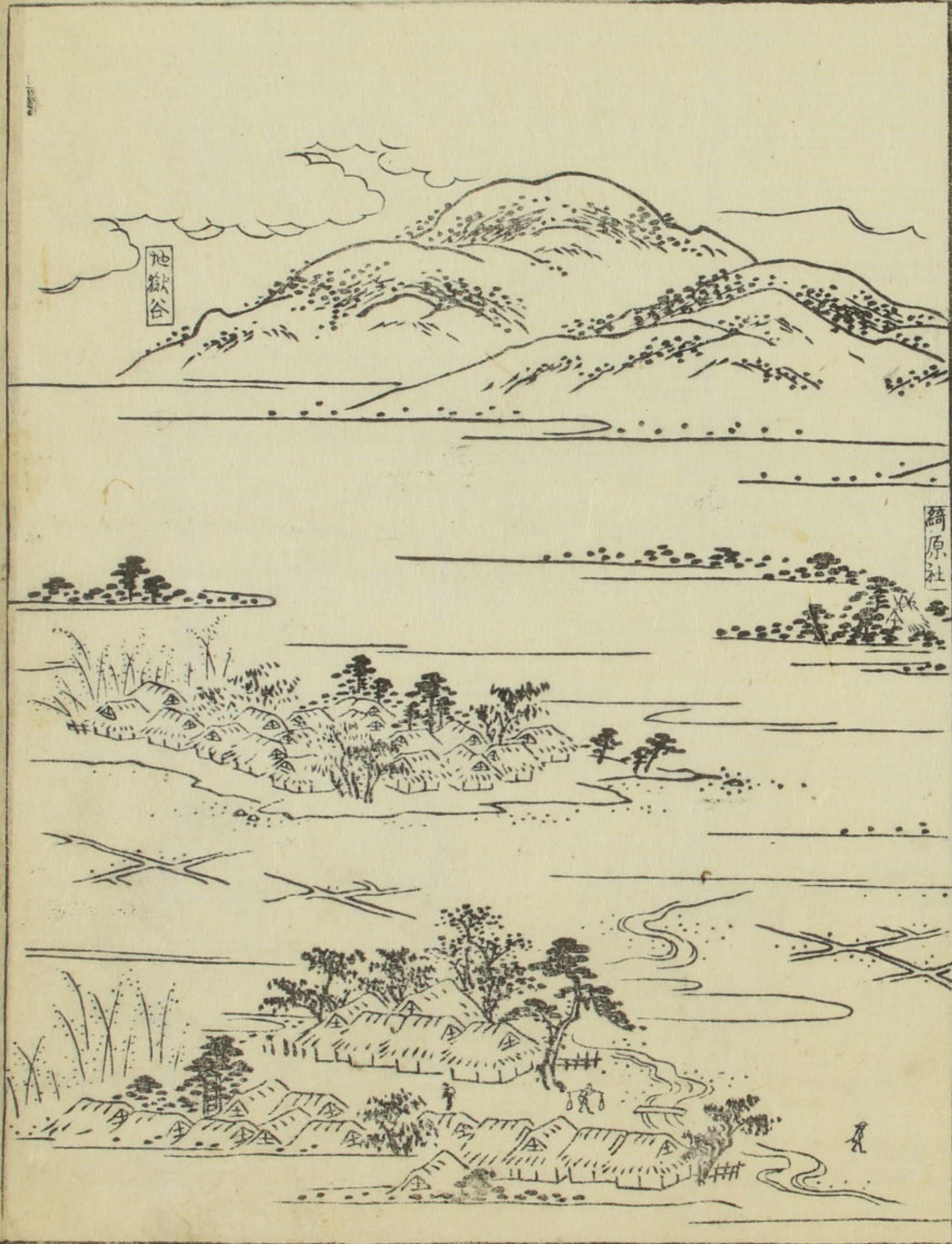


百丈山大智寺

湯井村



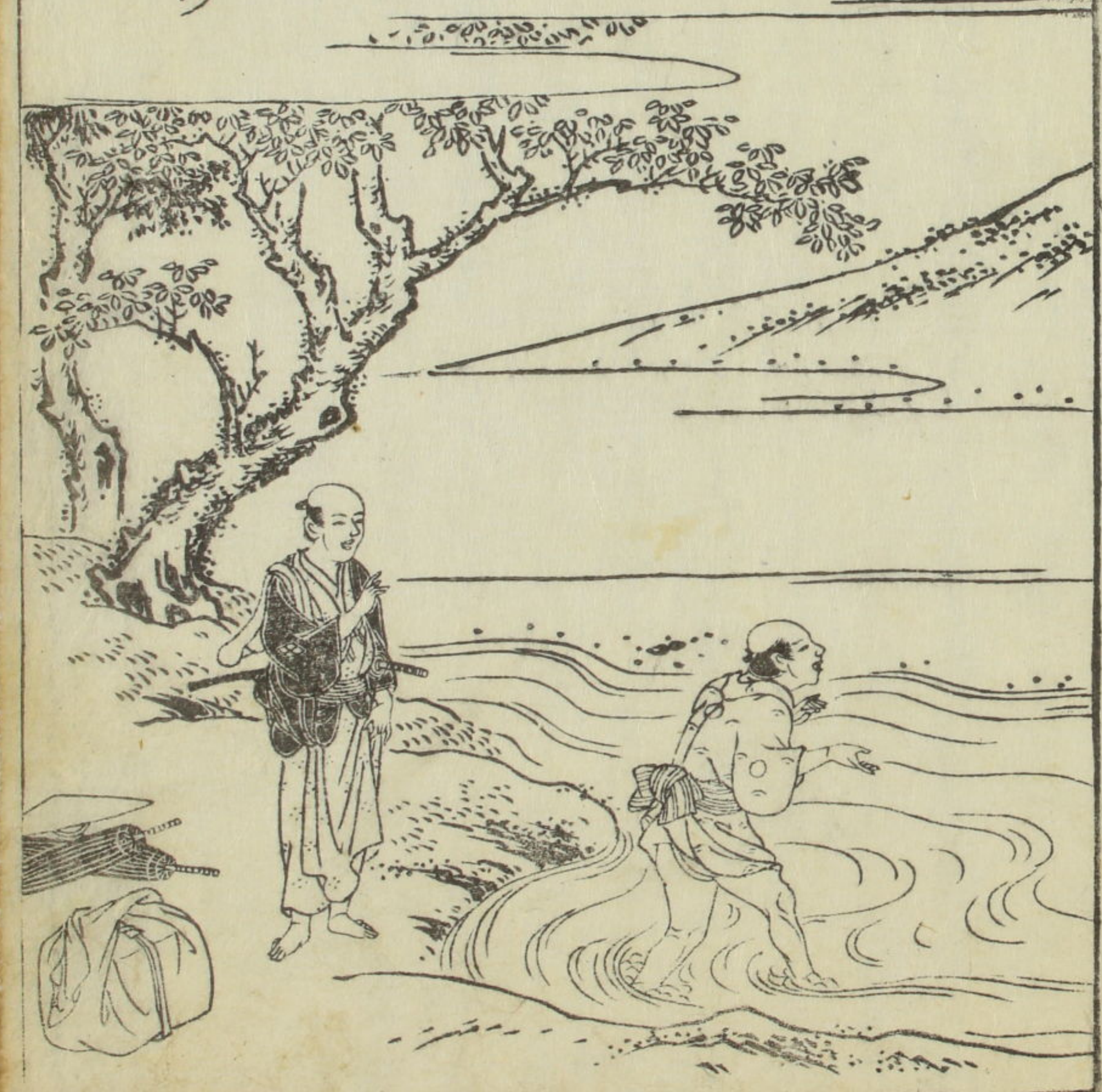
玉水
井堤大官旧跡
玉井寺



井坂の玉川の
名所六つ玉川の
其一ツおろり
たぐはき諸兄公
は河辺の茶藤
やほく極のい
より八まき一重
暖みえれぬ此面
小腫七金蓋を
つゝ〇〇〇〇〇〇
あゝんんんん



拾玉集
玉葉
井坂の河風
長閑あそ
ろくそと
ましく
山吹花
長録
おれり
井ての下
初めり
あそり
玉河のあ



高倉宮並廟と玉水北南鳥居村のふあり後白河院尊二の皇子茂仁親王之格三余高倉

小沛殿ありゆ高倉宮と栴平家物語曰宮八南都宮遷させりてて源甲四五百騎

光明山寺久二まで宮のたの所側後三三たれハ所馬より為させゆいて所頭三たれゆいなり

普門山蟹満寺綿田村あり真言宗ありて本まの釋迦仏と安長 當寺傳

記曰ゆつは卿常ふ至善ありて佛はけりゆの奉あり女ををのらり初より

普門品と涌して並進ゆく日田面遊ひたが村人蟹とて殺さんとして

買り放りたり具耕せんとして止るる地の墓と告てありたりお放さんとして

ざりたりお放さんとして止るる地の墓と告てありたりお放さんとして

地はぬし教とて吞けりる墓と吐しお放の中を這ぬ家お歸り悔くお下も

甲斐ふし具夜初果のほおびの人あり今朝の約おさうとてお下りしと

ゆよく後回おさうしてゆよくお下りしとてお下りしとてお下りしとて

歸りぬ女いりお下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

三日してお下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

くらんろ父母見ゆつてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

と蟹とてお下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

観音現ゆしてお下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

土で穿地と埋て具地お下りしとてお下りしとてお下りしとて

梶原社綿田村ありて所梶原平三景時と盛なり一たぬる延喜式の

漏の社林の中ありて所和使坐天乃夫支賣神あり一洗三一夜と漏出ゆ

北吉野神童寺又金剛義院ありて所和使坐天乃夫支賣神あり一洗三一夜と漏出ゆ

本尊の藏王権記立像長八尺あり當山傳記曰金精明神神童あり役行者と

共まねりゆの尊像之用山堂あり役行者の係と安長四十二の清浄あり

子守勝手の兩社金精明神の社に本堂の東二町ありは後らお下りしとて

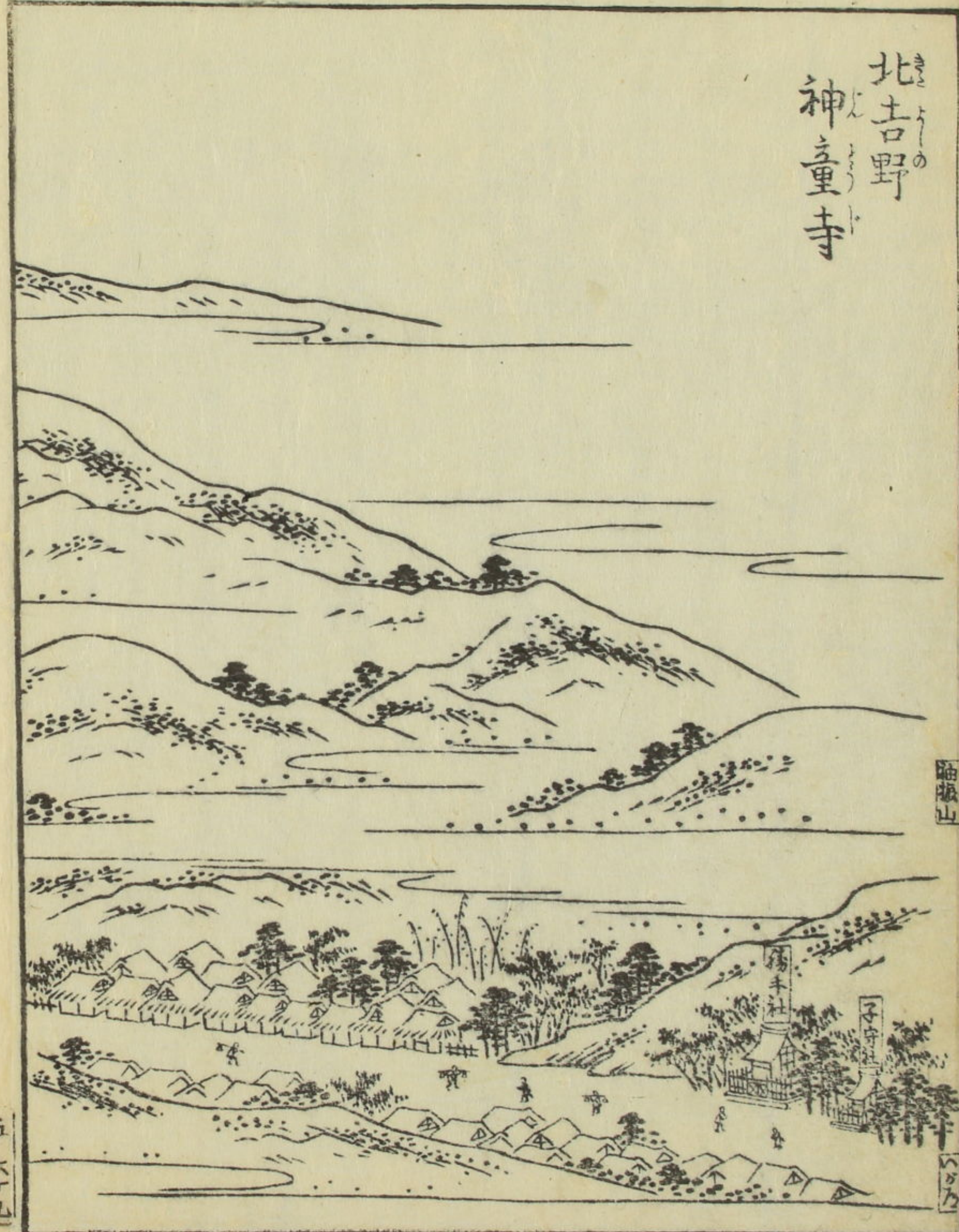
柝けらお下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

吉野ゆお下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

當所の人家の多くむお下りしとてお下りしとてお下りしとて

お下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて

お下りしとてお下りしとてお下りしとてお下りしとて



北吉野の
神童寺

福山

妙勝禪寺ハ本津川ハ西薪村ニあり 酬恩菴 禪宗ノ一ツニ興基ニ大應國師正應年中

小艸創一ニ休和尚康正の年ニ再興ニ佛殿ヲ奉テ釋迦佛ト安置ス凡ハ堂ノハ

大應國師ハ係ト安並一方大ハ一休和尚ハ係ト安並 後發ト生身ト植ス

酬恩菴の額 方ハ一休ノ掲 一休の塔ハ遺骨ヲ藏シ又常ニ携フハ一休ノ遺骸あり

方ハの庵ハ佐川田 八幡宮ハ當寺の西町ニあり其ノ所ハ地生社ニ 佐川田喜六の旧庵あり

神南備ニ 新村の西あり 天神社 新村の南 天神宮 天神社の西の樹あり其ノ所ハ

天返天神ト云ハ里の志保村 普賢寺 漢法社ハ社ノ異ナリ河列 牧方ハ出ル所あり

綴喜都 普賢寺漢の異ナリ方ニ町ニありテ南ニありテ一継體天皇の 繼體天皇の

皇居ヲ遷スルノ所トシテ今都谷ト云ハ里原ニあり 長月 後鳥羽院

長月のはたれ糸の松ニありハありテ其ノ所ニ 行家

やのせと云ハ里の里ハありテ其ノ所ニ 爲世

段々良不動堂 都谷の山下あり 大御堂 寺ハ普賢寺ト云ハハ一休盛教ニあり

牛頭天王社 普賢寺谷の上あり其ノ里の 若王寺 下柏ニあり其ノ所ハ阿彌陀佛ハ春日ハ從之

藏園山 若王寺の西 祝園 下柏の南あり 祝園 天皇の時 土師 祝園の南あり 爲世

本津川 一名泉川ト云ハ河海抄曰泉川ト云ハ本津川ト云ハハ本津川ハ其ノ所ニ 爲世

本津川ニありテ其ノ所ニ 伊列ト云ハ田郡阿知ト云ハ所ニあり 出伊賀半田の水ハ川ニ流レ未ト後川ニ流レ

雨ハありテ晴天の日ハありテ東風ト云ハ吹クハ備水ト云ハ流レ白布常ニ流レ其ノ

玉 月終ニ云ハのよハ泉河川風涼ト云ハ其ノ所ニ 後成女

泉河をたけりりの月終ニ云ハ其ノ所ニ 後守文院

新續言 泉河をたけりりの月終ニ云ハ其ノ所ニ 後守文院

本津川 京師より大和街道よりあり 行基菩薩泉川ニ樹立シテ供養ニ供スル所ニ 本津里 果ハ一休盛教

の清宇南都大佛殿建立の付園ト云ハ林本ハ運送ト云ハ里ハ看ト云ハ本津の名

ありハ所ニあり 泉河をたけりりの月終ニ云ハ其ノ所ニ 後守文院

現存あり 泉河をたけりりの月終ニ云ハ其ノ所ニ 後守文院

和泉式部墓 本津町の東あり 橋柱寺 本津の内大村の東あり 泉川の傍 斷絶の

泉川上人の墓あり 佛像ハ外安置ス 哀堂 大智寺の南ニあり 重衡ハ所ニあり

今大智寺ト号ス 堂の良坂の下ニあり 頸洗池 重衡ハ頸洗ありハ所ニあり

海修山寺



みらの木
佛も村

の旧
變り



宝蔵

五七二

寺分圖

相楽里を本津の坤土師の南あり 古事記云白河津龍窟の事常の悲して山代國相楽に寺樹の松

朝方れがのめりしはくはぬのおまのふけまの坊とひるわれと 高橋朝臣

鹿茸心と本津の東あり 本津の嶺といふ 馬咋山 仙堂万葉抄云泉川にあり

益雄の小板乃るも乃後と雪降ふたり衣のなみ 公賞

一の坂 本津の南半里あり 念佛石 坂の南あり土人土佛座といふ南都人佛屋再建のた

念佛の功德とせり 狗里 上狗は本津川を隔て十町あり下狗は所り軒あり本津川の

小信也と高麗の文多奴相ふりて所の名とせり 一はまを百済の神と云ふはかり編を才愛の

百 狗と呼ぶ 朝光

やほしやとせり 城の狗野小 高麗寺れ旧蹟 上狗の

泉橋寺 北地意あり行基の位を平能吉はのる地意ふを要り 高麗寺れ旧蹟 東まの

野中 確道わり 用明帝の 勅ありて唐俗を辨位し寺あり

瓶原 狗里の東一里ありむり 瓶と埋まゆり 水流入つて 瓶と埋まゆり 瓶と埋まゆり

瓶と埋まゆり 瓶と埋まゆり 瓶と埋まゆり 瓶と埋まゆり

とれ花さくや 光俊

柞の杜 瓶原の郷中 當の瀧 西村の入り 真田川 西村系右の

とそふ 貫之

い 貫之

新 定家

園分寺 日御河本村あり本まの河 菜切石 日御井平尾村あり

海修山寺 瓶原郷佛生寺村の 當寺ハ聖武天皇の勅

頼所 中興と解脱上人 三車塔 聖武帝の用祖鑑直和尚漢土より傳

十面 文殊菩薩なり 文殊堂 假行者の像と安ん 解脱上人 解脱上人の像

解脱上人 解脱上人の像

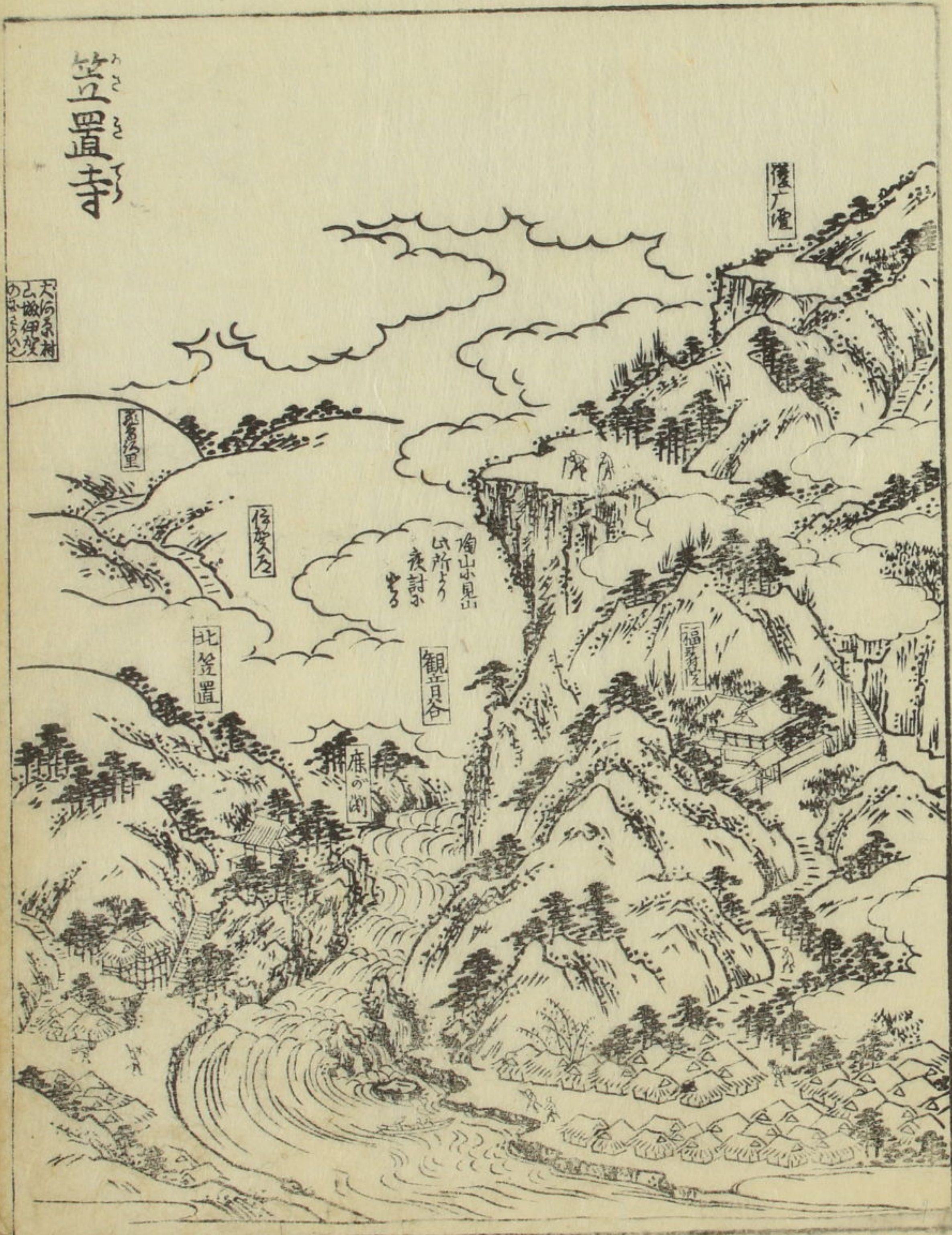
井守 井守と号す

井守 井守と号す

井守 井守と号す

井守 井守と号す

笠置寺



大徳寺

笠置山

信長公

北笠置

観音谷

麻の岡

陶山見山
山所より
疾討ふ
也

懐刀庵

鹿野山



解脱天台

千手の修

後醍醐天皇
御遷幸
の地

梅の書判
の岩

恭仁の都れ旧地ハ瓶原の西鹿背山のやうなり
聖武天皇十一年十二月
始て官城を造り帝行幸し人賀世の西の道よりあり
横諸兄公は地を領し置り

左に西と右とをせしり
新築
新築
吹風もむしとのまやあつらんふれ都ふはるらる花
出所門院
兼氏

水はいつより人のとて絶てふの都
流園と瓶原の西か茂の液れり
神都大佛殿建立の向伊賀より材木を運て
聖武帝宸襟衣冠しへ所良辨僧都岩瀬より千手の法衣後へ心念岩石
碑散て道を通く故ま多くの材木を運て運て置り
は所と流の園といふ二つの岩
は下へ流て今飯園といふ

瓶原のやい瓶原より鴨村に至る道の傍あり
か着郷を去るなり中ふ
大村あり
鴨川
鴨川の別名あり
清見川原
鴨の液に至る
川系あり

布當山
瓶原の西より一隔山
泉川のやうなり
梅
古郷を遠くもわくはるるに瓶原我うはるる我せり
田も福丸
高田の内連

鹿路山笠置寺ハ本津川の河上笠置のやうあり
麓に民家多し川板隔て西村あり
南笠置小笠置といふ

五月雨をあすまらふり川をたれふもさくられは
後流
當の依笠置と號する年ハ往昔天武天皇此の遊獵の所奈とまひ
駿馬巖に膝依屈して動は天皇危急めて之賢故禮し安泰を祈り

わのり此の佛園造營とて祈誓し今既小感應わつて奈馬速く
進む故不具證として着脚の蒲笠依らに遺し還幸し今も佛園依
建立ありて笠置寺と號しあり
麓より板板八町あり
宗吉の言すて新義と

本堂及び弥勒佛の本尊あり
自願石か護一堂
ちれ正月堂と号しあり春香窗
月の間天下家令の候はありて二月堂

二月堂あり當山田原の後南都東大寺に
於て二月の候はあり
弥勒石
高六間横四間をく回深の石面集て佛像彫りたる

薬師石
高十間余
文殊石
高五間余
虚空藏石
高八間をくり石面小
佛像解あり

千手崖
良弁僧都のた多り形は
胎内挑
奥の原とせりより身板縮く
楠書判石
楠正成石面より半板依
護摩壇跡
祈禱ありと
具吹岩

後廣徳法皇の角貝の巻あまのつば 榎本神鎮守の鐘樓かねのうら 解脫上人げだつしやうじん 眞まこと 浄檀金じやうだんきん

銘曰金置山般若臺きんおきやまはんじやくたい 建久七年丙辰八月十五日けんくうしちねんひやうしん 般若臺はんじやくたい 浄檀の西あり解脫

大和尚南無阿弥陀佛だいおしょうなんむあみだぶつ 所より解脫上人塔げだつしやうじんとう 向ののり

童子瀧どうしやうたに 後醍醐帝の皇居を當心の類ごたいごうていのおうきよをあたうまごころのるい 千手龍石正童子瀧金剛せんじゆりゆうせきしやうどうしやうたにきんごう

の乃の 某師石弥勒石の上の平たつしやうせきりやくせきの上のひら 楠正成と云ふすくねしやうなりと云ふ 始て浄味方じやうみかた 陶山

小見こみ 之の 夜討よすし 所ところ 此こゝ の背せ 中ちゆう 水みづ の方かた 乃の 入いり りり 軒のり 百ひゃく 又また の巖いわ 石いし をいえて

鳥とり も翔とぶ ぐくく 古松こしょう 枝えだ とと 垂たれ 蒼苔そうたゐ 露つゆ ふふ るる 麓ふもと の泉いづみ 川がは とと 帯おび て白浪しろなみ 巖いわ とと 碎くだ

く勢いきほひ ありて水流すいりゆう の委曲ゐきよく 驚おどろ 地ぢ ふふ 似に たりたり 之の 別わか 差さ の勝かち 地ぢ ありて千巖せんがん 秀ひら とと 競せき ひ鳥

壑やみ 流りゆう 以もつ 争あそ 入いり たるたる 水みづ の奥おく とと いい つつ 也や

栗栖天神宮くりせあまのみや 多置おほおき 之の 麓ふもと 人家いへ の西にし ありあり 多おほ 所ところ 大満おほみち 入いり 神かみ 之の 足あし 多おほ 坐ま 寺てら のの 後のち 淨じやう

飛鳥路あそとち 多おほ 壺か のの 十じゆ 余よ 町まち ありあり 陶たわ 山やま 公こう 公こう 公こう 有あ 市いち 飛鳥あそと 路ち の北きた ありあり 有あ 市いち 陶たわ 山やま の岸きし ありあり

大河原おほがはら 有あ 市いち の西にし ありあり 所ところ 大城おほしろ 大和おほわ 伊賀い 寺てら の園のぞ 傍かた ありあり

